

STEPPING OUT OF THE GENDER BOX

性別にとらわれず 自由に生きるために

「日本の高校生のジェンダー・ステレオタイプ意識調査」

2022 年 4 月



目次

P02 はじめに

P02 調査の背景と目的

P03 用語の説明

P04 調査の概要

P04 主な調査結果

P06 調査結果の詳細

P06 1. 回答者の属性

P08 2. 高校生が持つジェンダーのイメージとステレオタイプ

P16 3. ジェンダー・ステレオタイプの影響

P22 4. ジェンダー・ステレオタイプと価値観

P29 提言

P30 参考文献

P31 別添資料：ジェンダー・ステレオタイプ強度別のデータ



はじめに

調査の背景と目的



やりたいことがあっても、性別という箱に入れられて、自分自身もそういうフィルターを通して世界を見ているような気がする。

(16 歳女性、高校1年生)

私たちの多くは、生まれる前から性別という箱に入れられ、「赤ちゃんが女の子ならピンクの服、男の子なら青」、幼い時は「女の子はかわいいお人形、男の子は戦闘系のおもちゃ」と決めつけられ、その後も服装や髪型、進学や就職の進路、キャリアの選択など、家族や学校といった自分を取り巻く人々や自分自身の固定概念から大きく影響を受けています。「ジェンダー・ステレオタイプ」とは、こうした女性や男性に対して社会で浸透している固定観念や思い込みのことで、私たちが性別にとらわれずに自分らしくいることや、自分がやりたいことをする妨げになることもあります。

日本は世界的に見ても男女の格差が大きく、ジェンダー平等への取り組みが大きく遅れています。世界経済フォーラムが各国を対象に実施する、教育、政治、経済、医療における男女の格差に関するジェンダー・ギャップを示す調査「ジェンダー・ギャップ指数 2021」によると、日本は 156 カ国中 120 位でした^{※1}。

わたしたち公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン（以下、「プラン」）では、日本の状況を改善するためには、法律や制度の改正などの取り組みだけではなく、ジェンダー・ステレオタイプの解消が重要だと考えています。

ジェンダーの影響は幼少期から起きており、ある研究によると、ジェンダー・ステレオタイプは 10 代前半から自分の価値として受け入れ、15 ～ 16 歳頃にさらに強まることが分かっています^{※2}。2021 年に内閣府が 20 ～ 60 歳を対象に実施した「性別による無意識の思い込み」に関する調査では、約半数が「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」と回答し、3 人に 1 人が「女性は感情的になりやすい」と回答しました^{※3}。

また、同年 9 月にプラン UK の 11 ～ 18 歳の女の子を対象に行ったジェンダー・ステレオタイプに関する調査では、68% の女の子が「ジェンダー・ステレオタイプは女の子と女性の可能性を狭めている」と回答し、52% が「男の子や男性が許されていることを（女の子だから）してはダメ」と言われた経験がありました^{※4}。私たちは、子どもの権利とジェンダー平等の実現を目指す団体として、子どもや若者を性別による制限や差別から守る必要があると考えます。

※1 : World Economic Forum, Global Gender Gap Report 2021, March 2021, https://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2021.pdf

※2 : Victor José Villanueva Blasco1, Ester Grau Alberola (2019) "Gender and age differences in the internalization of gender stereotypes in early and mid adolescence"

※3 : 内閣府男女共同参画局「令和3年度 性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究」（2021 年 9 月）
https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/seibetsu_r03.html（最終閲覧日 2022 年 2 月 25 日）

※4 : Plan International UK (2021) "International Day of Girls: Gender Stereotypes Key Findings"

イギリスに続く調査として、プランは、2022 年 1 月に日本の高校生（15 ～ 18 歳）2,000 人を対象にアンケート調査を実施しました。調査では全てのジェンダー（女の子、男の子、そして男女以外の多様な性自認の人々）の高校生が持つジェンダー・ステレオタイプや価値観、またその影響や経験について知るために、以下4つの項目に分けてアンケート調査を行いました。

1. 高校生が持つジェンダーのイメージとステレオタイプ
2. ジェンダー・ステレオタイプの表現や発言を向けられた、見聞きした経験
3. ジェンダー・ステレオタイプの影響
4. ジェンダー・ステレオタイプと価値観

用語の説明

ジェンダー	社会文化的に形成される性別で、社会や文化で異なる、男女の役割、関係性、価値などに基づく考え方や、規範や期待を表しています。ジェンダーは、「女性」と「男性」だけでなく、ノンバイナリー（女性にも男性にも分類されない、もしくは両方を持ち合わせている）など、多様な性自認のことも指すことがあります。
ジェンダー平等	すべての人々が、ジェンダーにかかわらず、社会において平等な権利を有し、同じ地位をもち、尊重され、自己決定とその結果への影響力をもつこと。
ジェンダー・ステレオタイプ	性別に関し社会に浸透している固定観念や思い込みのこと。
性自認	自分自身が認識している性別。自認する性は出生時に判定された身体の性別とは違ったり、「女性でも男性でもないと感じる」、「女性と男性両方と感じる」、「わからない、まだ決めてない」という人もいます。身体の性別の枠を超えた性を、ここではジェンダーとも言います。

調査の概要

- ・ 期間 : 2022 年 1 月 25 日 ~ 31 日
- ・ 方法 : 株式会社ネオマーケティングの協力を得てインターネットによるアンケートを実施。
- ・ 設問数 : 15 問
- ・ 対象 : 全国の高校生 : 15 ~ 18 歳 2,000 人
 - 自認する性別 : 女性 964 人 (48.2%)
 - 男性 964 人 (48.2%)
 - その他 38 人 (1.9%)
 - 答えたくない 34 人 (1.7%)
- ・ グラフの数値について : グラフで示している数値は、小数点 2 桁で四捨五入している。その影響で、必ずしも 100% とならない場合がある。

※アンケート対象者が未成年であることに配慮し、アンケート調査実施に際しては事前に保護者の承諾を得た上で、設問に進むように設定した。



主な調査結果

1. 高校生が持つジェンダーのイメージとステレオタイプ

- ・ ジェンダー・ステレオタイプを持っているかどうかは、大きな男女差はあまり見られないものの、男の子の方がより強いジェンダー・ステレオタイプを持っている傾向がありました。

2. ジェンダー・ステレオタイプの表現や発言を向けられたり、見聞きした経験

- ・ 4 人に 1 人がジェンダー・ステレオタイプの表現や発言を受けた経験があり、女の子や自認する性が女性、男性以外の人の方が、そうした経験を多くしていました。
- ・ ジェンダー・ステレオタイプの表現や発言を受けた経験がある高校生のうち、学校で経験した人は 10 人中 7 人で、家庭で経験した人は約 5 人に 1 人でした。
- ・ 女の子は「家事をしなさい」、「おしとやかにしなさい」、男の子は「泣いてはだめ」、「運動ができないとだめ」などと言われ、特に学校では、男女ともに「理系は男子、文系は女子」という考えや、重い物を運ぶのは男子という考えや役割を押し付けられた経験があげられました。
- ・ ジェンダー・ステレオタイプが弱い人の方が、ジェンダー・ステレオタイプをより敏感に認識していました。

3. ジェンダー・ステレオタイプの影響

- ・16.6%が「自分の性別が理由で不当な扱いを受けている」と感じたことがあり、18.9%が「自分の性別が理由で何かを諦めたことがある」と回答しました。
- ・「社会では自分とは別の性別の方が良い思いをしていると思ったことがある」と回答した女の子が31.7%だったのに対して、男の子は22.9%でした。
- ・約7割が、「ジェンダー・ステレオタイプは、自分の可能性を狭めている」と感じており、その割合は女の子の方が男の子より高い傾向にありました。
- ・4人に1人が、「ジェンダー・ステレオタイプが進学や就学などの進路決定に影響している」と回答しました。
- ・ジェンダー・ステレオタイプの影響の有無については、男女で見ると男の子より女の子の方が、「影響がある」と回答しており、自認する性が女性・男性以外の方が、最も多く「影響がある」と回答していました。

4. ジェンダー・ステレオタイプと価値観

- ・10人に8人が、「男女平等が重要である」と考えている一方で、女の子より男の子の方が、またジェンダー・ステレオタイプが弱い人より強い人の方が、男女平等を「重要ではない」と考える傾向が見られました。
- ・ジェンダー・ステレオタイプが強い人ほど、外見や成績などの表面的なことや、伝統的または保守的な考えに価値感を置いている傾向がありました。



調査結果の詳細

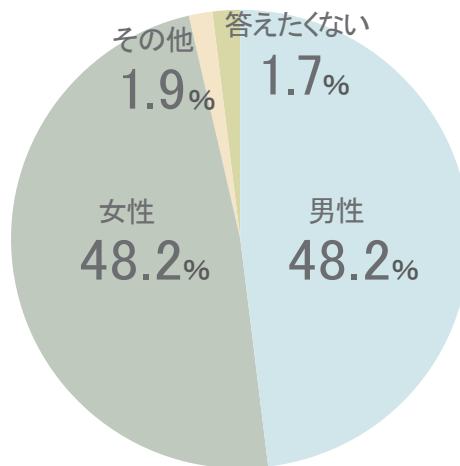
1. 回答者の属性



性自認

回答者が自認する(自分自身が認識している)性別は、「女性」48.2%(964 人)、「男性」48.2%(964 人)、「その他」1.9%(38 人)、「答えたくない」1.7%(34 人)でした(表 1 参照)。自認する性は、出生時に判定された身体の性別とは異なることがあります。ここでは、身体の性別の枠を超えた性をジェンダーと言い、本アンケートでは、ジェンダーの男女比が半々になるように回答を集めました。

表 1 : 回答者の自認する性別



学年と年齢

回答者の学年は、高校 1 年生が 36.9%(738 人)、2 年生が 34.3%(686 人)、3 年生が 28.8%(576 人)でした。年齢で区分すると、15 歳が 8.3%(165 人)、16 歳が 34.1%(681 人)、17 歳が 34.0%(680 人)、18 歳が 23.7%(474 人)です。

表 2 : 回答者の学年

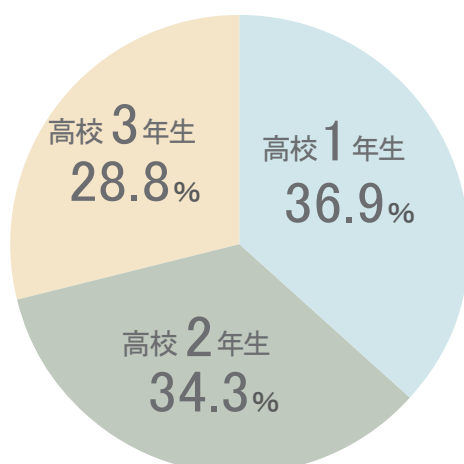
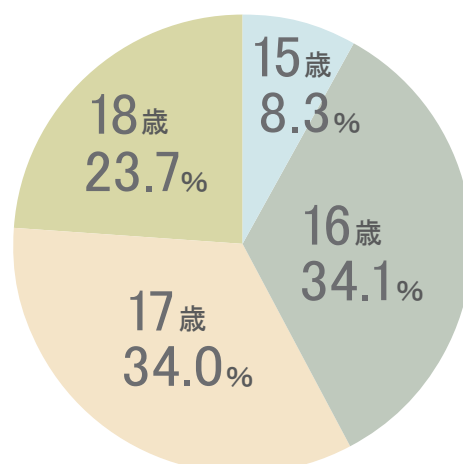


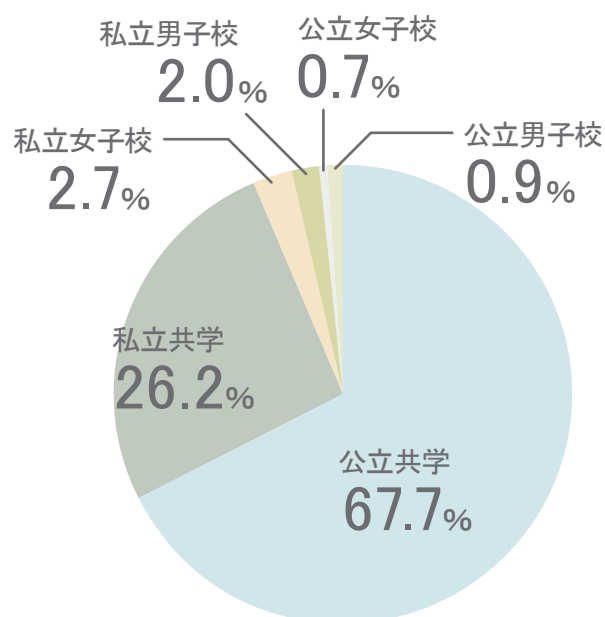
表 3 : 回答者の年齢



学校の種類

回答者の学校の種類は表 4 の通りです。大多数(93.9%)が男女共学の高校に通っていました。

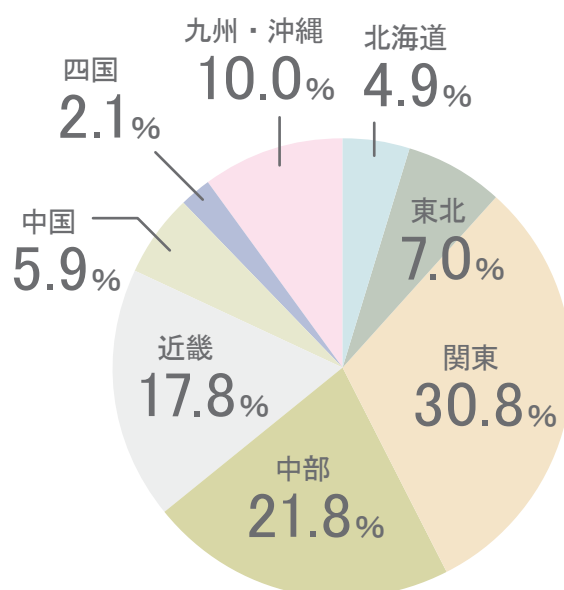
表 4 : 回答者の学校の種類



居住地域

回答者の居住地域は表 5 の通りです。地域が均等になるように回答を集めなかったため、関東地方との回答が 30.8%と多めになっています。

表 5 : 回答者の居住地域



2. 高校生が持つジェンダーのイメージとステレオタイプ



男女のイメージ

高校生がどのようなジェンダーのイメージを持っているのかを知るために、「女の子」、「男の子」から思い浮かぶ言葉をそれぞれ最大 3 つあげてもらいました。表 6、7 は回答数が多かった言葉を大きく表示したワードクラウドです。

表 6: 「女の子」という言葉から思い浮かぶ言葉

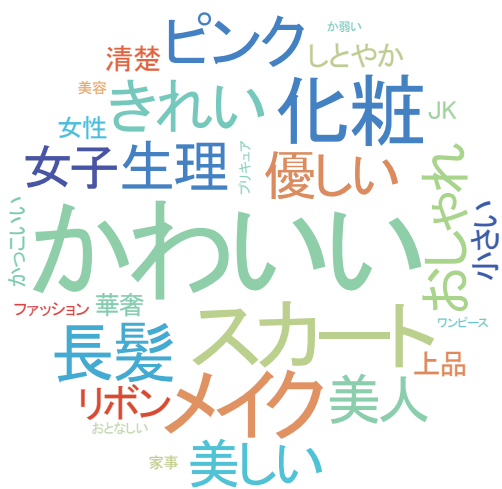
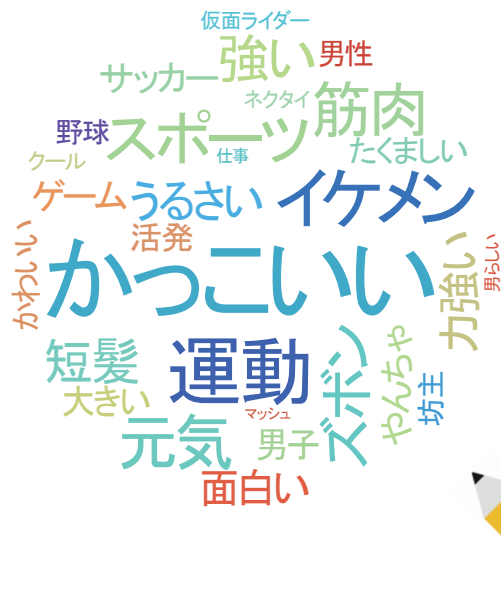


表 7: 「男の子」という言葉から思い浮かぶ言葉

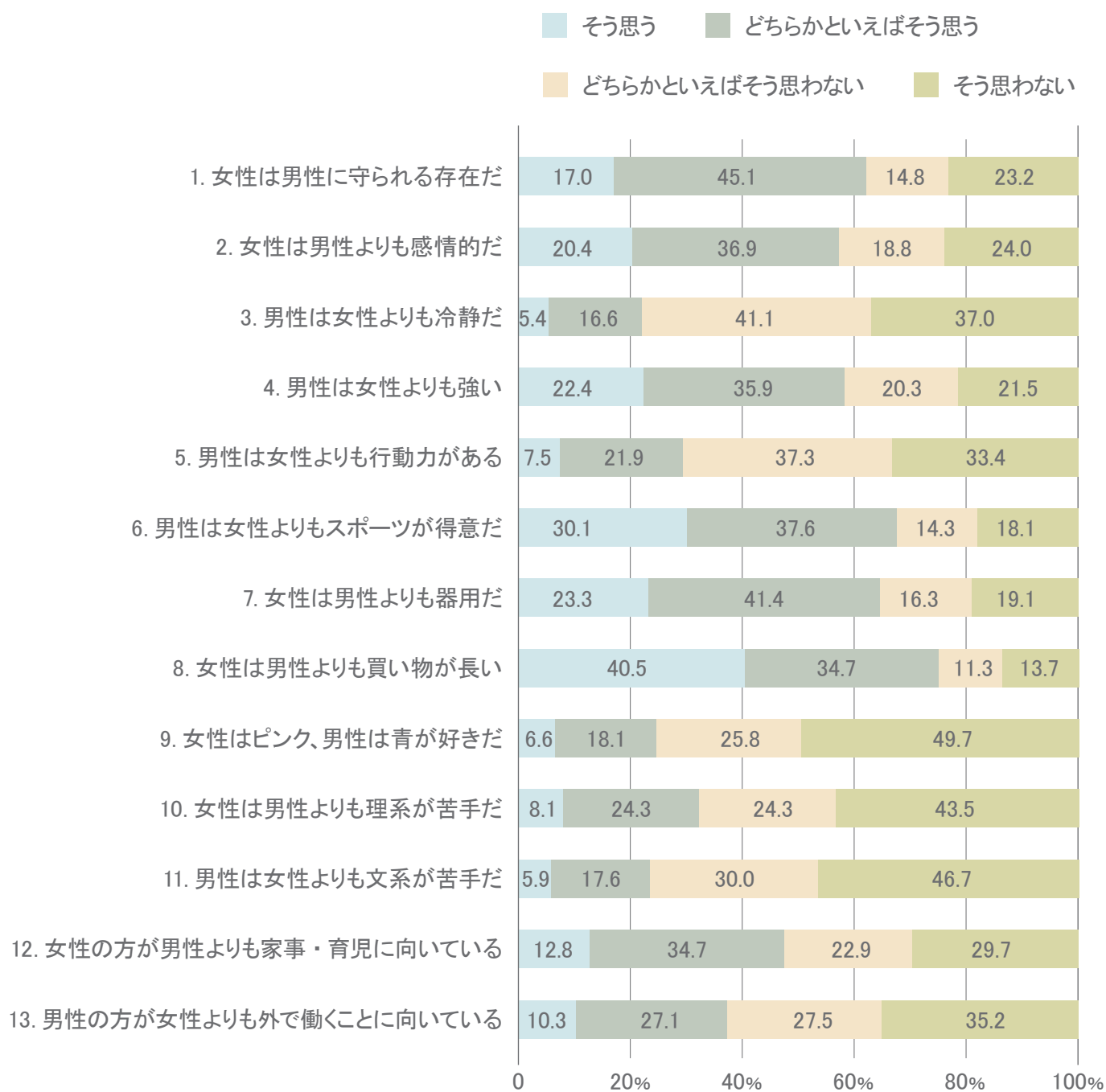


女の子は「かわいい」、「化粧・メイク」、「美しい」など男の子より外見に関するイメージが多く、男の子は「かっこいい」というイメージが一番多かったものの、「筋肉」、「スポーツ・運動」、「強い」、「元気」など、強さや活発さを表す言葉が目立ちました。また、数は多くないものの、女の子だけに出てきた言葉として「家事」、「家庭的」、「専業主婦」など家庭のイメージが、男の子だけにでてきた言葉で「働く」、「大黒柱」、「サラリーマン」など、外で働くイメージと性別役割分業が現れていました。男女両方に出てきた言葉は、「面白い」、「頭がいい」、「かわいい」、「かっこいい」などでした。

ジェンダー・ステレオタイプな考え

回答者にはジェンダー・ステレオタイプの考えを示す 13 の設問に、それぞれ「そう思う」、「どちらか」というと「そう思う」、「どちらか」というと「そう思わない」、「そう思わない」という選択肢から、最も近いものをひとつ回答してもらいました。

表 8：ジェンダー・ステレオタイプの考えに対する意見(各設問 1 つ選択)



「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と半分以上が回答した項目は、「女性は男性に守られる存在だ」、「女性は男性よりも感情的だ」、「男性は女性よりも強い」、「男性は女性よりもスポーツが得意だ」、「女性は男性よりも器用だ」、「女性は男性よりも買い物にかかる時間が長い」でした。ジェンダー別の回答の格差については、男女差はあまり見られませんでした。自認する性別を男女以外と回答した人は、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」とする傾向が見られました。なお、学年による違いはほとんど見られませんでした。

表 9 : ジェンダー・ステレオタイプな考えに「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合(ジェンダー別)

	女性	男性	その他	答えたくない
1. 女性は男性に守られる存在だ	61.5%	65.2%	10.5%	47.1%
2. 女性は男性よりも感情的だ	60.2%	55.7%	31.6%	47.1%
3. 男性は女性よりも冷静だ	20.3%	24.0%	5.3%	29.4%
4. 男性は女性よりも強い	62.9%	55.7%	23.7%	41.2%
5. 男性は女性よりも行動力がある	26.1%	33.8%	7.9%	17.6%
6. 男性は女性よりもスポーツが得意だ	71.6%	66.1%	28.9%	44.1%
7. 女性は男性よりも器用だ	62.9%	69.0%	26.3%	35.3%
8. 女性は男性よりも買い物が多い	78.8%	72.7%	50.0%	64.7%
9. 女性はピンク、男性は青が好きだ	18.8%	31.5%	0.0%	20.6%
10. 女性は男性よりも理系が苦手だ	33.9%	31.7%	15.8%	20.6%
11. 男性は女性よりも文系が苦手だ	23.2%	24.1%	10.5%	23.5%
12. 女性の方が男性よりも家事・育児に向いている	45.3%	51.3%	18.4%	29.4%
13. 男性の方が女性よりも外で働くことに向いている	32.6%	43.9%	7.9%	20.6%

表 10 は、表 9 に示された 1 ～ 13 までの設問の回答について、よりジェンダー・ステレオタイプのではない回答「そう思わない」を 1 ポイント、よりジェンダー・ステレオタイプの回答「そう思う」を 4 ポイントとして、1 ～ 4 点までの得点化してみたものです。

表 10 : ジェンダー・ステレオタイプな考えの得点

そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
+4 ポイント	+3 ポイント	+2 ポイント	+1 ポイント

ポイントの数値は、1 ～ 13 までの設問ですべて「そう思わない」(1 ポイント)と回答した場合の合計 13 ポイントから、すべての回答を「そう思う」(4 ポイント)と回答した場合の合計 52 ポイントまでとなります。2,000 人の平均ポイントは、30.17 ポイントでした。ジェンダー別に見ると、男の子 30.80 ポイント、女の子 30.05 ポイントと、男女差はほとんど見られませんでした。性自認の回答で「その他」と答えた人の場合は 20.45 ポイント、「答えたくない」と答えた人の場合は 26.38 ポイントであり、自認する性別を「男女以外と」で回答した人の方がジェンダー・ステレオタイプを自分の価値として受け入れてないことが分かります。

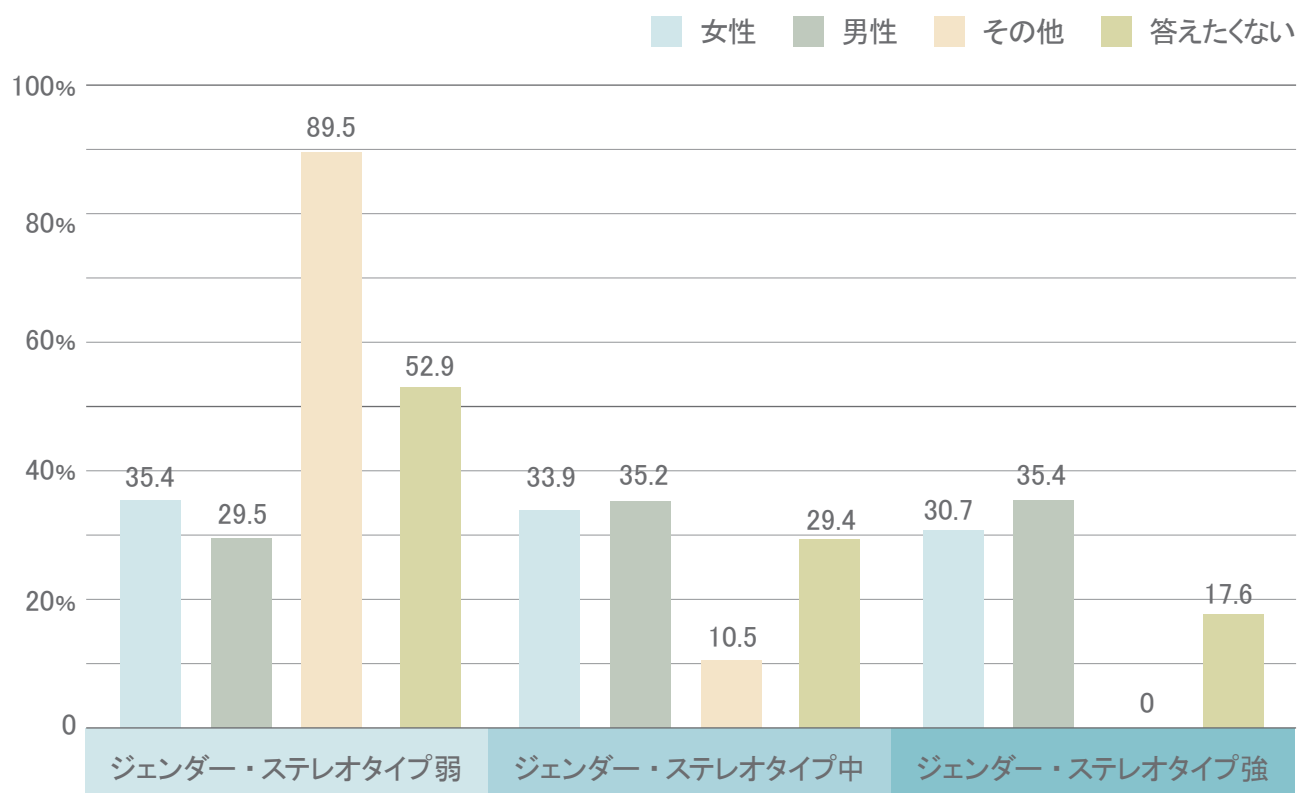
表 11 は、回答者 2,000 人が、どの程度のジェンダー・ステレオタイプを持っているか、その度合いを合計ポイントによって、「強」「中」「弱」の3つのカテゴリーに分類したものです。

表 11：ジェンダー・ステレオタイプの強度分類

強度	ジェンダー・ステレオタイプ 弱	ジェンダー・ステレオタイプ 中	ジェンダー・ステレオタイプ 強
合計	13～27 ポイント	28～34 ポイント	35～52 ポイント
人数	677人	680人	643人
割合	33.9%	34.0%	32.1%
平均	30.17 ポイント		

ジェンダー・ステレオタイプの強度を、ジェンダー別に分けたものが、表 12 です。「ジェンダー・ステレオタイプ弱」は「男性」29.5%(284 人)、「女性」35.4%(341 人)、「その他」89.5%(18 人)、「答えたくない」52.9%(18 人)で、「ジェンダー・ステレオタイプ強」は、「女性」30.7%(296 人)、「男性」35.4%(341 人)、「その他」0.0%(0 人)、「答えたくない」17.6%(6 人)で、男の子が最もジェンダー・ステレオタイプを強く持っていることが分かります。

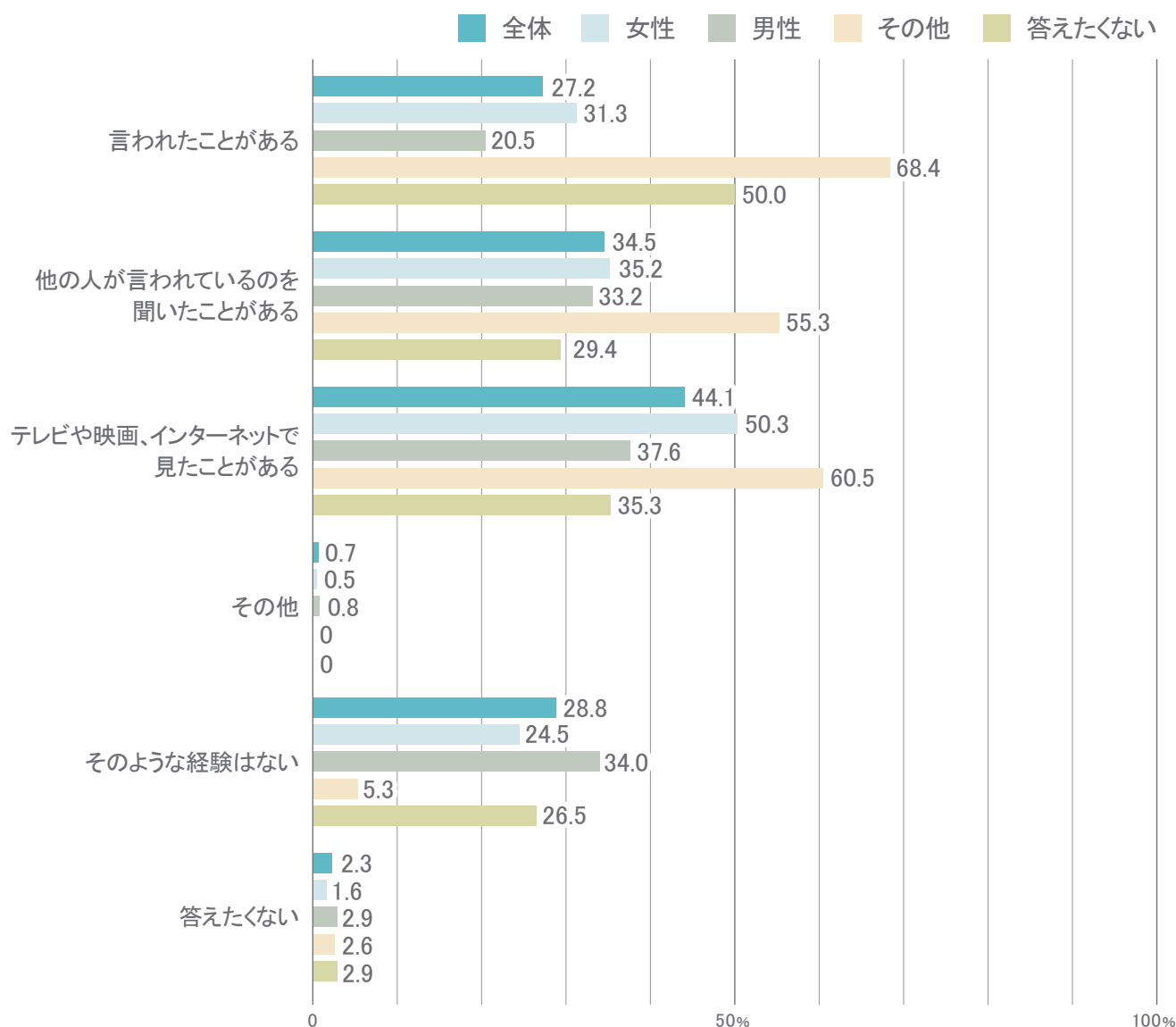
表 12：ジェンダー・ステレオタイプの強度(ジェンダー別)



ジェンダー・ステレオタイプの強度別に「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合をみると、「ジェンダー・ステレオタイプ強」は、「女性は男性に守られる存在だ」、「男性は女性よりもスポーツが得意だ」、「女性は男性よりも器用だ」、「女性は男性よりも買い物にかかる時間が長い」という設問で9割以上が「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と回答しました。(詳細は P31 別添 1 を参照)

ジェンダー・ステレオタイプの表現や発言を見聞きした、言われた経験

表 13：ジェンダー・ステレオタイプの表現や発言を見聞きしたり、実際に言われた経験(複数選択)(ジェンダー別)



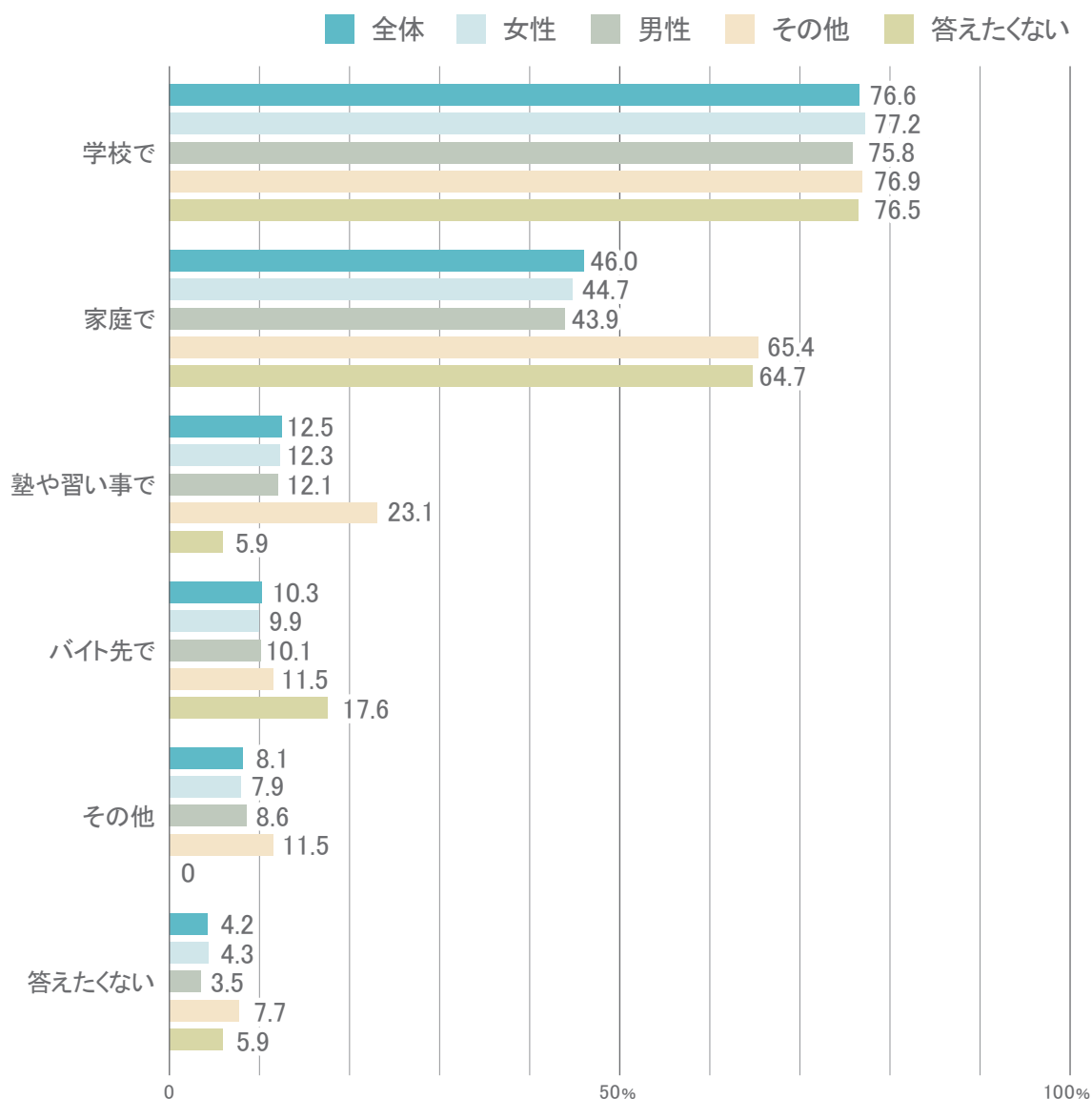
調査では、ジェンダー・ステレオタイプを『女性よりも感情的だ』、『男の子は女の子よりも文系が苦手だ』など、女性や男性に対し社会で浸透している固定観念や思い込みのことを指します」と定義した上で、ジェンダー・ステレオタイプの表現や発言を見聞きしたり、実際に言われた経験について尋ねました。「言われたことがある」と回答した人は、全体の 27.2%となりました。

ジェンダー別で見ると、「ジェンダー・ステレオタイプのことを言われた」と回答したのは、「女性」31.3%、「男性」20.5%、「その他」68.4%、「答えたくない」50.0%となりました。他方、「他の人が言われているのを聞いたことがある」と回答した人のうち、自認する性別で「その他」を選んだ人は、55.3%に上

りましたが、「女性」35.2%と「男性」33.2%と男女差は僅差でした。また、「テレビや映画、インターネットで見たことがある」と回答した人は、「男性」は37.6%に留まりましたが、「女性」50.3%、「その他」60.5%となり、メディアで扱われているジェンダー・ステレオタイプの表現や発言に対し、男女以外の性自認の回答者の方が、敏感な傾向にありました。なお、「そのような経験はない」と回答した人の内訳は、「男性」34.0%、「女性」24.5%となり、男女で約10ポイントの差が出ました。これにより、男の子のほうが、ジェンダー・ステレオタイプを認識しにくい可能性があることが推測されます。

ジェンダー・ステレオタイプの強度別で見ると、「言われたことがある」と回答した543人のうち、「ジェンダー・ステレオタイプ弱」が218人(32.2%)だったのに対し、「ジェンダー・ステレオタイプ強」は172人(26.7%)でした。また、「他の人が言われているのを聞いたことがある」と回答した690人のうち、「ジェンダー・ステレオタイプ弱」が218人(32.2%)だったのに対し、「ジェンダー・ステレオタイプ強」が172人(26.7%)でした。「テレビや映画、インターネットで見たことがある」と回答した882人のうち、「ジェンダー・ステレオタイプ弱」だったのが320人(47.3%)、「ジェンダー・ステレオタイプ強」が248人(38.6%)との結果が出ました。ジェンダー・ステレオタイプがあまり強くない人の方が、ジェンダー・ステレオタイプに敏感に認識する傾向があることが分かります。

表14：ジェンダー・ステレオタイプの表現や発言を向けられた場所・場面（複数選択）（ジェンダー別）



次に、「ジェンダー・ステレオタイプの表現や発言をされたことがある」と回答した人(543人)に、どこでそのような発言をされたのかを聞いたところ、表14で示すとおり、一番多かったのが「学校」で、回答者の10人中7人が選択していました。この回答には、ジェンダーによる差はほとんどみられませんでした。次に多かったのが、「家庭」です。「家庭」と回答した人をジェンダー別に見ると、「女性」44.7%、「男性」43.9%、「その他」65.4%、「答えたくない」64.7%となり、男女差はほとんど見られませんが、自認する性別を「その他」、「答えたくない」と答えた人は、家庭でよりジェンダー・ステレオタイプを押しつけられている可能性があることが推測されます。

具体的に「どのようなジェンダー・ステレオタイプの表現や発言をされたか」という質問に対し、女の子だから「家事をしなさい」、「おしとやかにしなさい」、男の子だから「泣いてはだめ」、「運動ができないとだめ」などと言われたほか、男女ともに「理系は男子、文系は女子」など、学習面においてもジェンダー・ステレオタイプを押しつけられていることが分かりました。また、男女以外の性自認の人も、女の子や男の子が向けられる内容と同じようなことを言われていました。以下が自由記述の一部です。

女の子

- ・女の子なんだからもっとおしとやかにしなさい。(17歳女性、高校3年生)
- ・勉強は女の方ができないから、仕事もきっとできない人になる。(16歳女性、高校1年生)
- ・女の子だからかわいらしい振る舞いをしなさい。(18歳女性、高校3年生)
- ・青の物が欲しかったけど、「女の子だから」とピンクの物にされた。(18歳女性、高校3年生)
- ・女なんだから大学には行かなくてもいい。(18歳女性、高校3年生)
- ・バイトがうまくいかなかった時に、「これだから女はダメだ」と言われた。
(15歳女性、高校2年生)
- ・「女の子なんだから料理ができて当たり前」と先生が言っていた。(16歳女性、高校1年生)
- ・「女は黙っていろ」と言われてやるせない気持ちになった。(17歳女性、高校3年生)
- ・良い点数のテストや成績を見せたら「頭の良い女の子は嫁の貰い手がない」と言われた。
(18歳女性、高校3年生)
- ・理系を選択したのですが、「女子が少ないのは脳の構造的に理系科目が男性より向いていないからだ」と言われたことがあります。(18歳女性、高校3年生)
- ・「女子は基本文系だろう」と言われ、もやもやとした気持ちになりました。
(18歳女性、高校3年生)
- ・「女は結婚したら仕事を辞めるんだからとりあえずの職につけばいい」と言われました。
(17歳女性、高校2年生)

男の子

- ・友人が進路選択の際に、文理がどちらもできるため理系に行くかと思われていたが、文系を選択したので、「男子なら理系じゃね」と言われていた。（17 歳男性、高校 2 年生）
- ・体育で持久走をやったとき「男子なんだから早く走れ」と先生から言われた。（18 歳男性、高校 3 年生）
- ・メイクを始めた時に「男なのに」みたいなことを言われた。（18 歳男性、高校 3 年生）
- ・学校などで、「男子は重いものを持って」と指示された。（16 歳男性、高校 2 年生）
- ・同性の後輩のことを可愛がっていたら、「同性愛みたいなことにならないで欲しい」という趣旨のことを親から言われた。（18 歳男性、高校 3 年生）
- ・男性は仕事をして女性は家庭を守らないといけない。（18 歳男性、高校 3 年生）
- ・男は良い大学に行くべき。（17 歳男性、高校 2 年生）
- ・男の子なんだから我慢しなさい、泣かない。（17 歳男性、高校 2 年生）
- ・男の子は強くなって女の子を守らないといけない。（17 歳男性、高校 2 年生）
- ・男は学歴が大事だ。（18 歳男性、高校 3 年生）



3. ジェンダー・ステレオタイプの影響



ジェンダー・ステレオタイプが高校生にどのような影響を及ぼしているのかを知るために、性別を理由として、以下の経験をしたことがあるか、4つの設問で尋ねました。全体の回答は以下のとおりです。

表 15：性別を理由とした自身への影響(各設問から1つ回答)

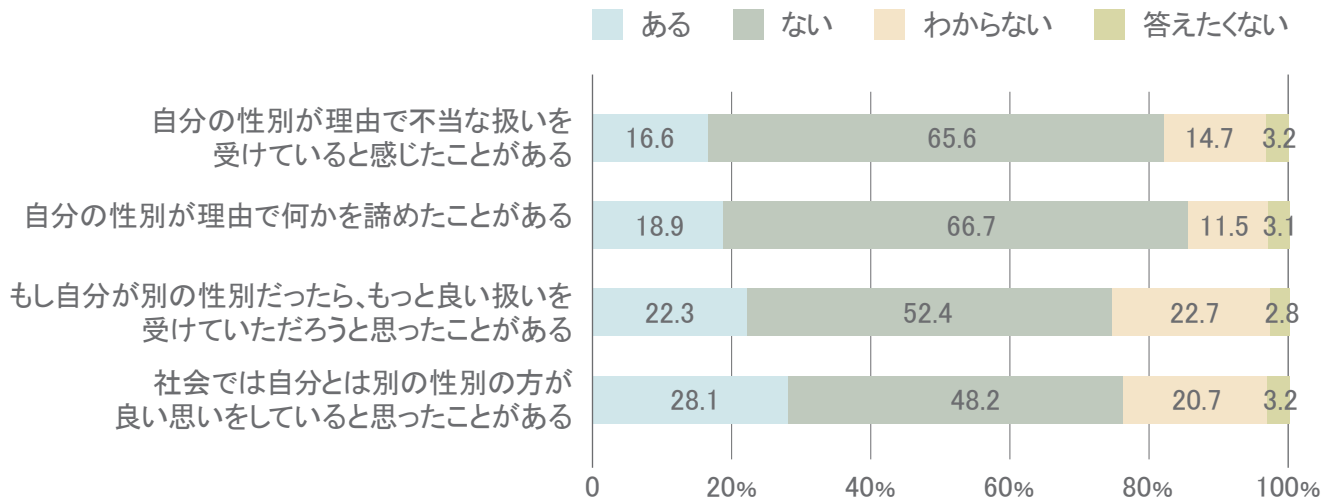
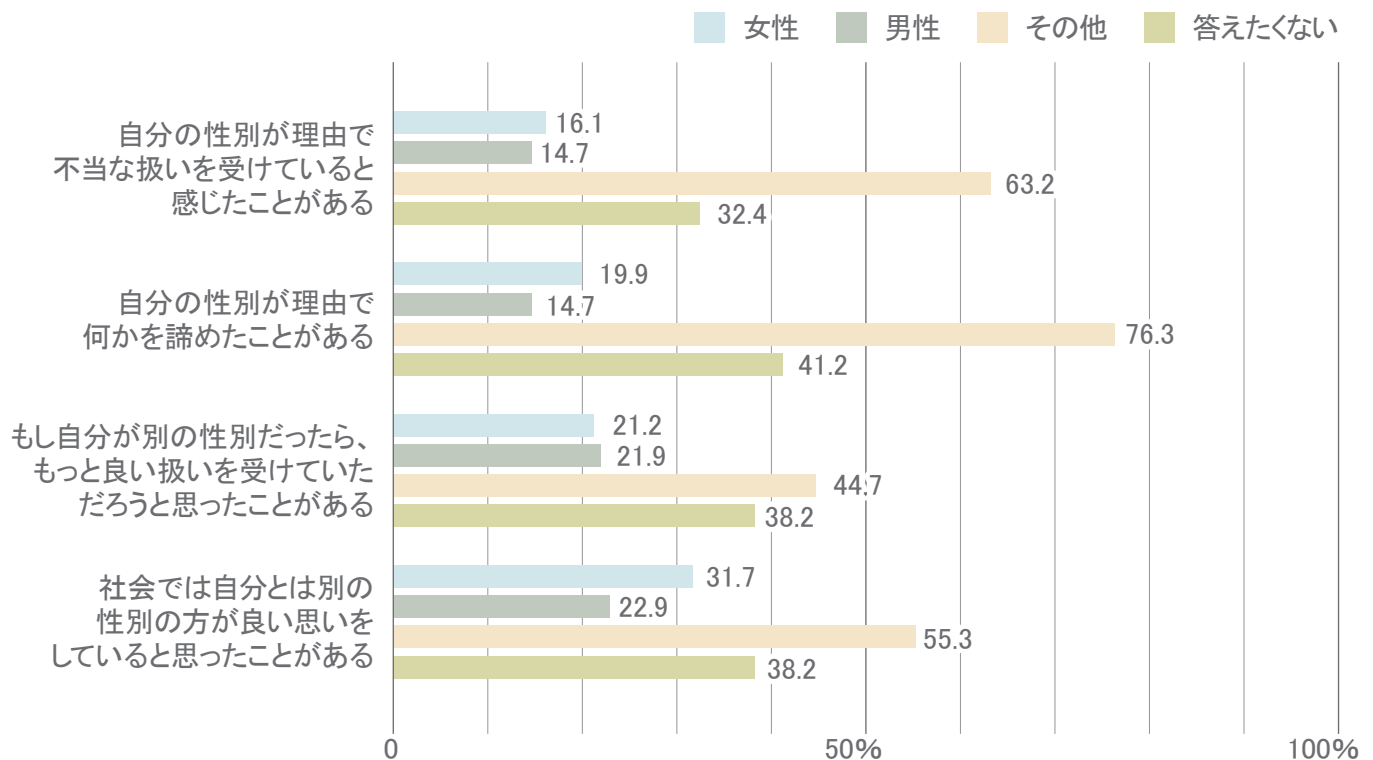


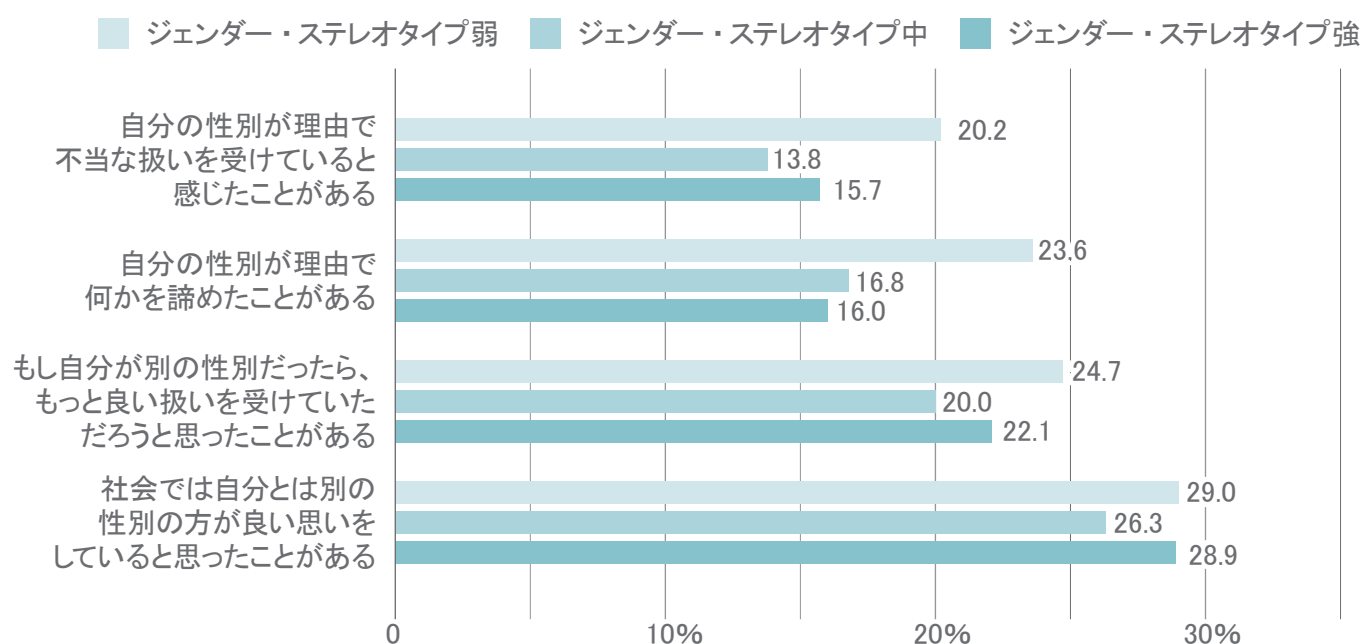
表 16：性別を理由とした自身への影響で「ある」と回答した割合(ジェンダー別)



ジェンダー別で見ると、「もし自分が別の性別だったら、もっと良い扱いを受けていただろうと思ったことがある」は、「女性」21.2%、「男性」21.9%と男女でほとんど変わりませんが、それ以外の設問では、「女性」の方が「ある」と回答した割合が高く、最も影響を受けているのは、「その他」と回答した人であることが分かりました。

次に、ジェンダー・ステレオタイプ強度との関連を見ていきます。表 17 は、「ある」と回答した人をジェンダー・ステレオタイプ強度別に示したものです。

表 17：性別を理由とした自身への影響で「ある」と回答した割合(ジェンダー・ステレオタイプ強度別)

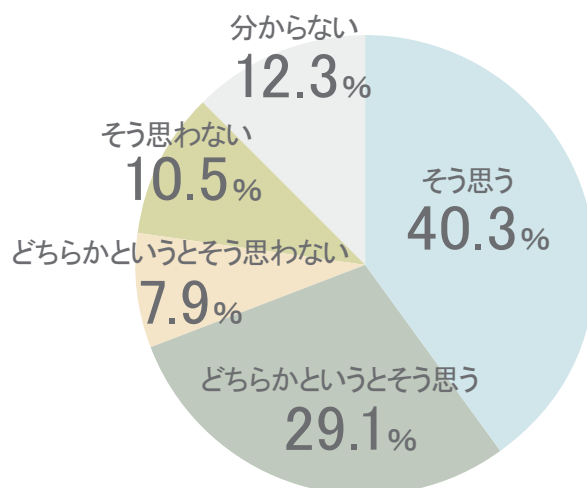


「ジェンダー・ステレオタイプ弱」の人は、性別が自分の扱われ方や社会からの捉えられ方に影響していることを、より強く認識している傾向がありました。また、ジェンダー別で見ると、40%以上の「ジェンダー・ステレオタイプ弱」の女の子が、「自分の性別が理由で不当な影響を受けていると感じたことがある」、「社会では自分とは別の性別の方が良い思いをしていると思ったことがある」、と回答しています。男女ともに「ジェンダー・ステレオタイプ弱」の人が、より多く「ある」と回答する傾向がありますが、女の子の場合は、特に顕著でした。

「自分の性別が理由で不当な扱いを受けていると感じたことがある」、「自分の性別が理由で何かを諦めたことがある」については、「ジェンダー・ステレオタイプ中」、「ジェンダー・ステレオタイプ強」の男の子が「そう思う」と回答する傾向があり、男の子に向けられたステレオタイプを理由に、不当な扱いを受けたり、何かを諦めるという決断に至っている可能性があります。

また、「ジェンダー・ステレオタイプは、自分の可能性を狭めていると感じるか」という設問について、「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と回答した人が約 7 割となったことから、多数の高校生がジェンダー・ステレオタイプによる弊害を感じていると考えられます。

表 18 : ジェンダー・ステレオタイプは、自分の可能性を狭めていると感じるか



ジェンダー別で見ると、「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と回答したのは、「女性」74.2%、「男性」63.7%、「その他」86.8%、「答えたくない」76.5%となりました。「男性」よりも、「女性」や「その他」、「答えたくない」とした人のほうが、ジェンダー・ステレオタイプによる弊害を感じやすい傾向がありました。

ジェンダー・ステレオタイプ強度別にみると、「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と回答したのは、「ジェンダー・ステレオタイプ弱」が 73.1%、「ジェンダー・ステレオタイプ中」71.1%、「ジェンダー・ステレオタイプ強」が 63.6%と、「ジェンダー・ステレオタイプ弱」が、「ジェンダー・ステレオタイプは、自分の可能性を狭めていると感じる」人の割合が高いことが分かります。

「ジェンダー・ステレオタイプは自分の可能性を狭めているか」の回答に対する理由についても、聞きました。「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」の理由で多かったのが、「個性がなくなるから」、「周りからの目が気になるのでやりたいこと自分で諦めてしまうから」、「制限のなかで行動から」でした。反対に、「どちらかと言うとそう思わない」、「そう思わない」の理由は、「自分はその固定観念には当てはまらない」など、ジェンダー・ステレオタイプへどう反応するかは、自分次第または個人の問題、という考えを持っている回答が多く、特に男の子にその傾向が見られました。以下が自由記述の一部です。



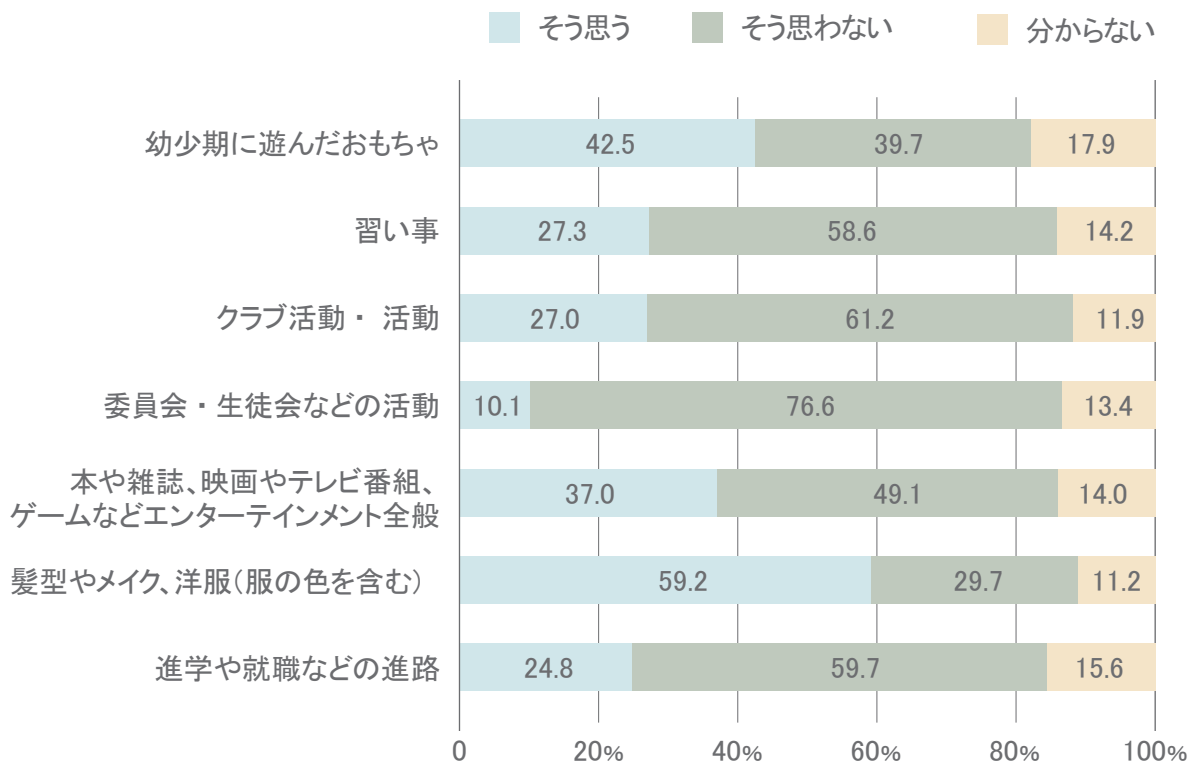
「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と回答した人たち

- ・「パイロットは男」や、今では男性も増えてきているが、「看護師は女」などと言われてしまうので、周りの目を気にしてしまってその夢を諦めてしまう可能性があるから。
(17 歳女性、高校 2 年生)
- ・男性は理系が得意とか、文系が苦手とか、そういう認識はなかったが、男性の方がやはり頭が良いという固定概念を、私も両親も持っていました。1 歳年下の弟よりも私は頭が良いが、両親から、「弟は本気を出せばあなた(私)よりもっと頭が良くなるんだ」と言われた時には、さすがにイラッときて、最近はあまり勉強が手につかないです。(16 歳女性、高校 1 年生)
- ・あまり世間を知らない若い頃から、「男はこうだ、女はこうだ」と型にはめるような言い方をして育てられたら、それが世間の常識と判断してしまうようになり、世間体を気にして、自分のしたいことを素直に言えなくなったり出来なくなったりする。(17 歳男性、高校 3 年生)
- ・意思がとても強い人であれば、周りからどれだけ言われても目標に突き進むだろうが、大抵の人は言われ続けられれば、そう信じ込んで夢を諦めてしまうから。(17 歳男性、高校 2 年生)
- ・職場では、女性より男性の給料の方が高い場合があり、男の方が有能だという固定概念が今でも根強く残っていると思ったから。(17 歳男性、高校 2 年生)
- ・男性にも手先がとても器用で家事もなんでもこなせる人、女性だって、バリバリ会社で働いて社長を務める人だっている。昔に比べて、だいぶ性別の垣根を超えて、誰でもどんな事でもできるようになってきた。しかし、まだ環境によってはジェンダー・ステレオタイプが強く、上の人からの発言で諦めざるを得ないことだってある。自分だって何度か選択を渋ることになったこともある。(18 歳男性、高校 3 年生)
- ・私自身がセクシュアル・マイノリティであり、日常生活の様々なところで、感情を抑えることにストレスに感じているから。(17 歳「その他」、高校 3 年生)
- ・LGBTQ で悩んでいる人は、ジェンダー・ステレオタイプを言われ、「体は男だから、女だから仕方ない」と考えて、諦めてしまっている人がいると思ったからです。(17 歳女性、高校 2 年生)
- ・ジェンダー・ステレオタイプによって、周りからどう思われるかを考えて選択をしにくくなると思うから。例えば「女性は理系が苦手だ」という固定観念によって、女性が理系科目を選択しにくくなったり、珍しい人のように扱われたりすることがあると思う。(18 歳女性、高校 3 年生)
- ・生まれてからずっと女性として育ってきているため、自らが女性であることに疑問は感じないが、「自分は完全に女性である」と、はっきり感じることはない。たまに、男性のような髪型や服装にしたいとすることがあるが、周りにどう思われるかを考えてしまって、結局踏み出すことがなかった。そもそもそれが男性的であるという感覚がある時点で、私の行動を制限されているのではないかと思う。(18 歳女性、高校 3 年生)

「どちらかと言うとそう思わない」、「そう思わない」と回答した人たち

- ・自分は縛られてはいないから。(16 歳男性、高校 1 年生)
- ・自分は差別を受けたことがないから。(18 歳女性、高校 3 年生)
- ・自分がその固定観念には当てはまらなと感じているのなら、周囲にそのことを示すような行動を取れば良いから。つまり、自然に生きてれば「ジェンダー・ステレオタイプに自分は当てはまらない人間なのだ」と周囲に示せると思う。(18 歳男性、高校 3 年生)
- ・「女のくせに」って今まで言われすぎて、気にならなくなった。そのような発言は無視すれば良い。誰かに何を言われようとも自分のしたいように個性的に生きた方が、受け入れてくれる人が周りに出来、楽しく生きやすくなるから。(16 歳女性、高校 1 年生)
- ・生物学上、オスとメスでは得意なことは違う。そのためジェンダーを論点にする必要はない。そんなことを言っていたら人口減少に拍車をかけるだけである。(17 歳男性、高校 2 年生)

表 19：性別を理由とした自身への影響(各設問から 1 つ回答)

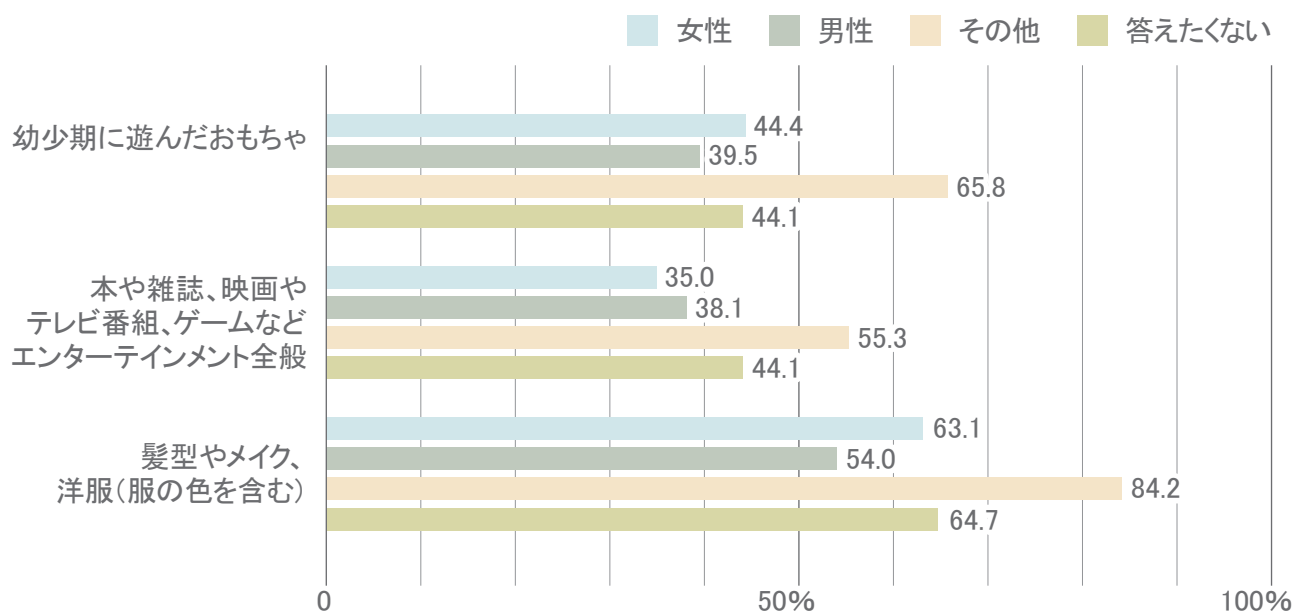


「幼少期に遊んだおもちゃ」や「習い事」などを決定する際に、ジェンダー・ステレオタイプが、回答者自身や保護者の選択にどのように影響を与えているかを聞いたのが、表 9 となります。選択に影響を与えたと「思う」とした人が 3 割を超えた項目として、「幼少期に遊んだおもちゃ」、「本や雑誌、映画やテレビ番組、ゲームなどエンターテインメント全般」、「髪型やメイク、洋服(服の色を含む)」が挙げられました。

それぞれの項目をジェンダー別でみると、影響を与えたと思うと回答した人の割合は、表 20 の結果となりました。特に顕著だったのは、「髪型やメイク、洋服（服の色を含む）」という項目で、「女性」63.1%、「男性」54.0%、「その他」84.2%、「答えたくない」64.7%との結果になりました。男女の差は約 10 ポイントで、男の子より女の子のほうが、ジェンダー・ステレオタイプによって、髪型、メイクや洋服などファッションの選択に影響を受けていると考えていることが分かりました。

女の子がジェンダー・ステレオタイプによる影響を受けやすい傾向は、「幼少期に遊んだおもちゃ」の選択でも、同様に見られました。「本や雑誌、映画やテレビ番組、ゲームなどエンターテインメント全般」は、「男性」38.1%、「女性」35.0%と僅差ではありますが、男の子のほうが、「ジェンダー・ステレオタイプによって影響を受けている」と感じる割合が高いことが推測されます。自認する性別が男女以外の人には、全ての項目でジェンダー・ステレオタイプが選択に影響を受けたと強く感じていました。

表 20 : ジェンダー・ステレオタイプが選択に与えた影響と思う人の割合（複数選択）（ジェンダー別）



ジェンダー・ステレオタイプ強度との関連をみると、「ジェンダー・ステレオタイプ弱」は、他のカテゴリーと比べて、上記選択の際にジェンダー・ステレオタイプの影響が弱いことが見て取れます。「習い事」や「クラブ活動・部活動」、「本や雑誌、映画やテレビ番組、ゲームなどエンターテインメント全般」、「進学や就職などの進路」において、「ジェンダー・ステレオタイプ弱」と「ジェンダー・ステレオタイプ強」は、10 ポイント以上の差が出ており、「ジェンダー・ステレオタイプ強」は、よりステレオタイプに影響された選択をしている可能性があります。一方、「髪型やメイク、洋服（服の色を含む）」は、ジェンダー・ステレオタイプ強度による差が小さいことも分かりました。ファッションを通じた表現については、一様にジェンダー・ステレオタイプの影響を受けている可能性があります（詳細は P32 別添 2 を参照）。

4. ジェンダー・ステレオタイプと価値観



表 21 は、男性と女性が同じように扱われ、同じ機会を享受することの重要性について聞いたものです。8 割を超える回答者が、男の子・男性と女の子・女性が同じように扱われ、同じ機会を得ることが「非常に重要」、「やや重要」と回答しました。ジェンダー別で見ると、「男性」84.9%、「女性」92.0%、「その他」89.5%、「答えたくない」88.4%が、「非常に重要」、「やや重要」と回答しました。女の子の 9 割がこのように回答する一方で、男の子の割合は低い結果となりました。

表 21：男女が同じように扱われ、同じ機会を得ることについて

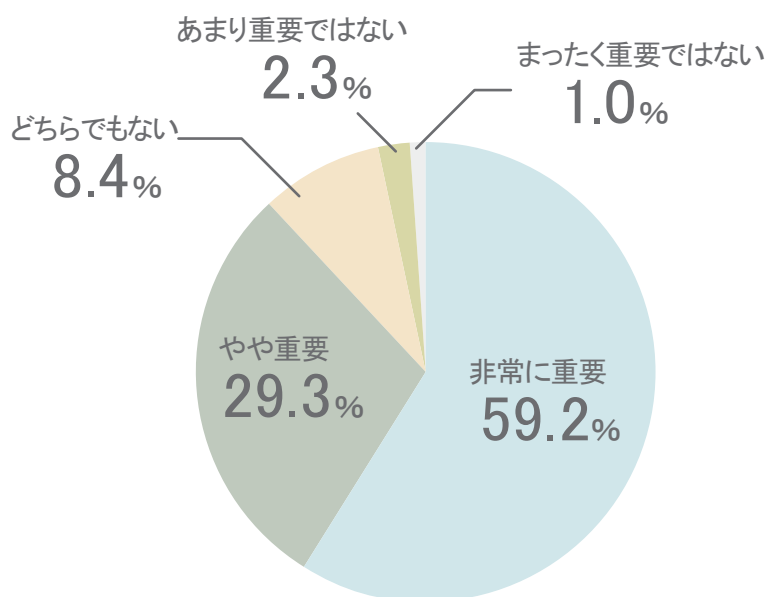


表 22：男女が同じように扱われ、同じ機会を得ることについて(ジェンダー・ステレオタイプ強度別)

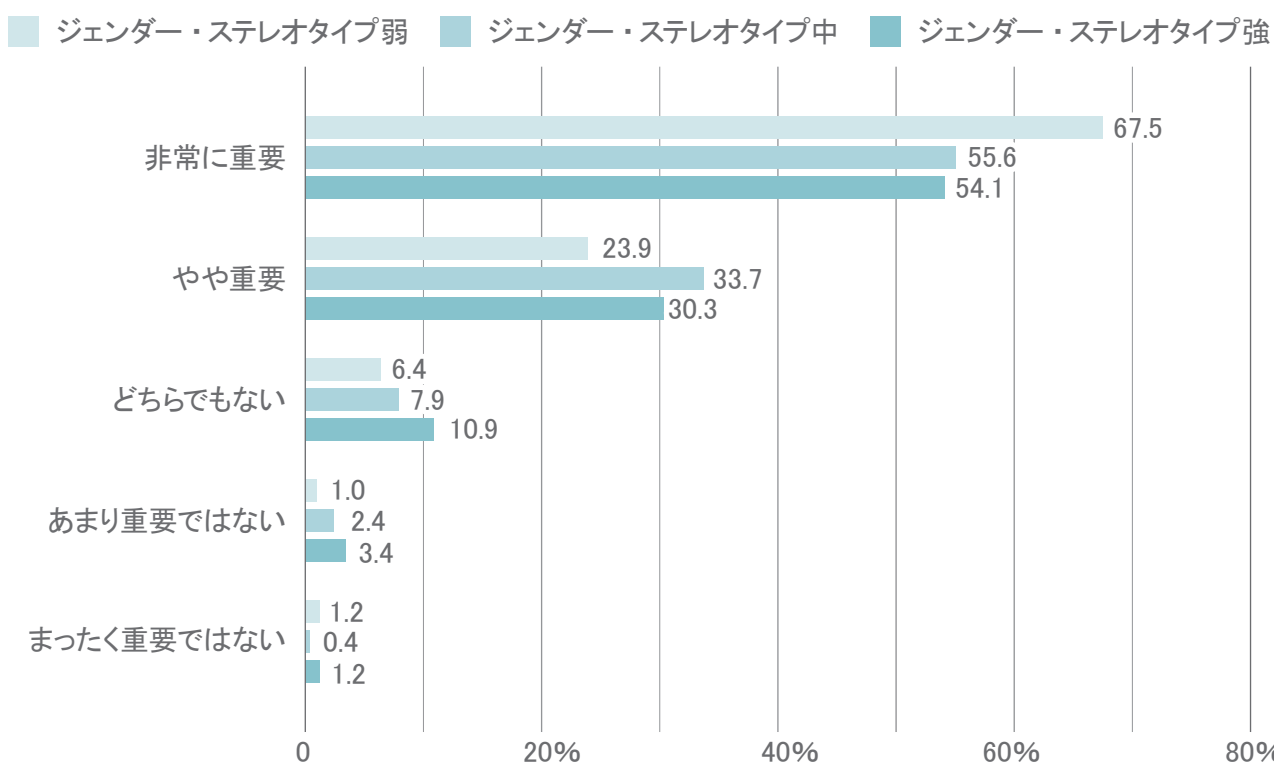


表 22 は、表 21 の結果をジェンダー・ステレオタイプ強度によって、詳細に分類したものです。「ジェンダー・ステレオタイプ中」と「ジェンダー・ステレオタイプ強」の人は、「非常に重要」と回答する人の割合の差は小さいですが、「ジェンダー・ステレオタイプ弱」と「ジェンダー・ステレオタイプ強」では、13 ポイント以上の差が出ました。ジェンダー・ステレオタイプが弱い人ほど、「男女平等は重要だ」と考える傾向が強くなっています。また、「ジェンダー・ステレオタイプ強」の人を男女別にみると、男の子が「非常に重要」、「やや重要」と回答する比率が低いことが分かりました。

また、男女平等の重要性について、なぜそう思ったのか、理由を聞いたところ、「やや重要」、「どちらでもない」には、「完全に同じにしなくても良い、男女には多少の違いがあるから」、「トイレや更衣室は区別した方がいいから」、「生理は配慮されるべきから」という理由や、「女性専用列車など差別的なものが多から」という理由により男女平等を重要とする男性もいました。以下が自由記述の一部です。

「非常に重要」、「やや重要」と回答した人たち

- ・日本は女性の社会進出が、他国に比べ遅れているため、政治家になる女性も少なく、それにより女性のことも考えた法律が制定されにくくなるから。（16 歳男性、高校 1 年生）
- ・今は女性議員が少ないことや会社の給料も男女で差があると思ったから。（17 歳女性、高校 3 年生）
- ・性別なんて、なんの意味も無いから。（15 歳「その他」、高校 1 年生）
- ・性別は自分で選ぶことができないため、性別で扱いを決められるのは不平等だから。（16 歳女性、高校 1 年生）
- ・「女だから家事をやれ」とか、「女はこうするべき」などの考え方は今の時代では通用しないし、本来あってはならないことだ。夫婦間では性別に捉われずに家事や育児を一緒にできることが重要だし、どの性別でもしたいことができる社会になってほしいから。（17 歳男性、高校 2 年生）
- ・どんな性でも、生きやすい世の中のほうがいいから。（17 歳女性、高校 2 年生）
- ・今まで生きてきた中で差別が多いと感じたから。（16 歳女性、高校 1 年生）
- ・LGBTQ の方々にとっても生きやすくなると思うから。（17 歳女性、高校 3 年生）
- ・人によって違う才能を、性別を理由に否定される人が 1 人でも少なくなければ良いと思うから。（17 歳男性、高校 2 年生）
- ・女性の多い学校にいる私にとって、男性が少数派であるため、立場が弱いから。（17 歳男性、高校 2 年生）

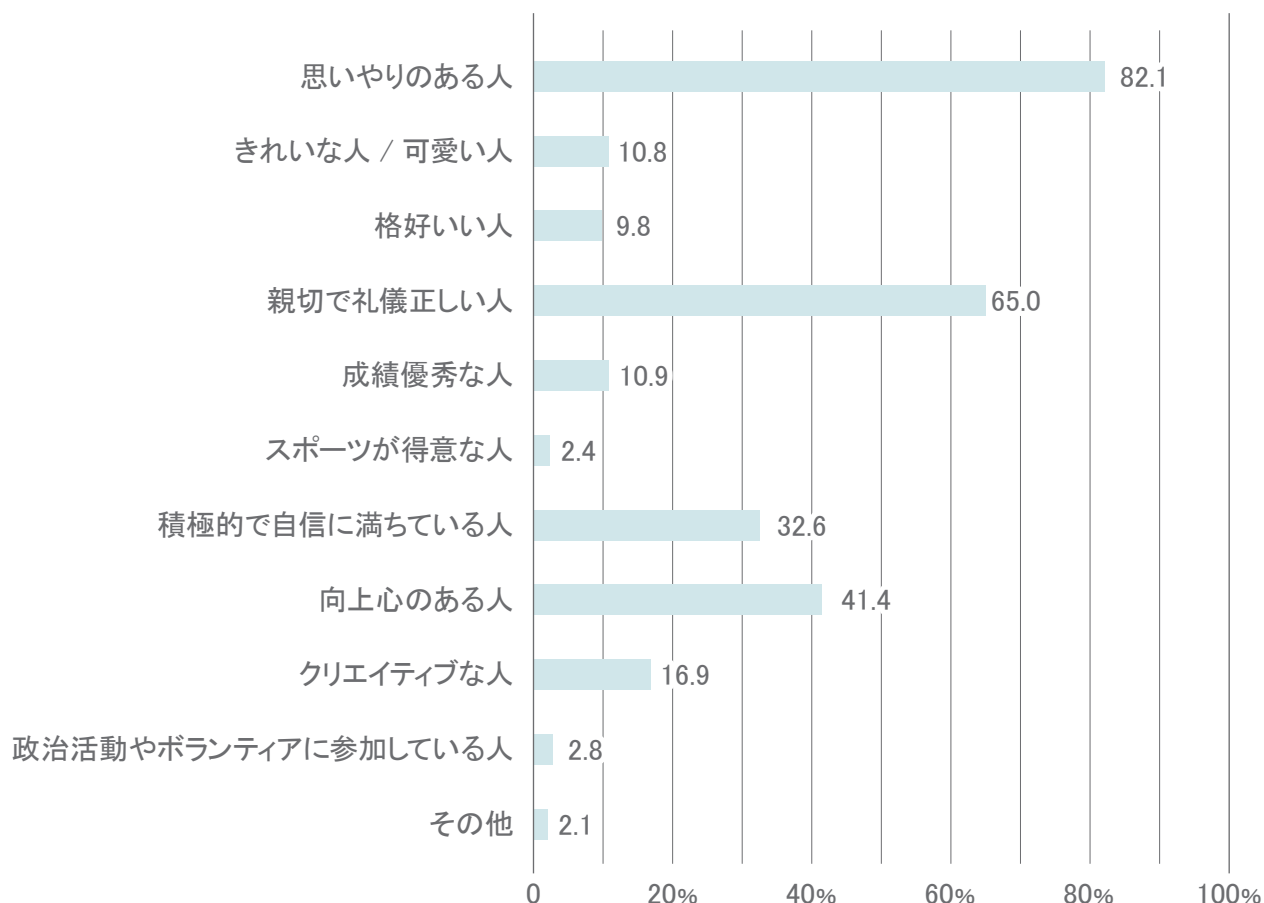
「まったく重要ではない」、「あまり重要ではない」と回答した人たち

- ・男性には男性の仕事が、女性には女性の仕事があるから。(16 歳男性、高校 1 年生)
- ・性別によって分けたほうが、効率が良いことが多いから。(17 歳男性、高校 2 年生)
- ・生物学的に限界があるから。(18 歳女性、高校 3 年生)
- ・男性に配慮されていることも、女性に配慮されていることも、どちらもあると思うので、平等にする必要はないと思います。そもそも女性の地位を上げる運動は、能力のない残念な女どもの泣き言であって、できる女は地位が高く、できない男は地位が低いです。本当のジェンダーレスを目指すのであれば、女性の地位を上げるのではなく、そんなことは考えないことだと思います。(16 歳男性、高校 1 年生)

憧れのリーダー像

調査では憧れのリーダー像について、最大 3 つの選択ができる形式で、回答してもらいました。結果は、表 23 の通りです。「思いやりのある人」(82.1%)、「親切で礼儀正しい人」(65.0%)、「向上心のある人」(41.4%)が上位 3 項目となりました。ジェンダー別でみると、男女での大きな差はありませんでしたが、性自認が男女以外の方は、「クリエイティブな人」と回答する割合が他よりも 10 ポイント以上高く、「積極的で自信に満ちている人」と回答する割合が相対的に低くなりました。

表 23：憧れのリーダーのタイプ(3つ選択)



ジェンダー・ステレオタイプの強度で見ると、「ジェンダー・ステレオタイプ強」の人は、「きれいな人 / 可愛い人」に価値を置く人が比較的多く（「ジェンダー・ステレオタイプ弱」7.8%、「ジェンダー・ステレオタイプ強」14.8%）、それ以外でも「成績優秀な人」（「ジェンダー・ステレオタイプ弱」8.4%、「ジェンダー・ステレオタイプ強」13.4%）、「積極的で自信に満ちている人」（「ジェンダー・ステレオタイプ弱」28.7%、「ジェンダー・ステレオタイプ強」34.7%）、「向上心のある人」（「ジェンダー・ステレオタイプ弱」44.2%、「ジェンダー・ステレオタイプ強」36.7%）、「クリエイティブな人」（「ジェンダー・ステレオタイプ弱」21.6%、「ジェンダー・ステレオタイプ強」11.7%）に差が出ました。（詳細は P33-34 別添 3、4 を参照）

最も大切だと思うこと

回答者にとって最も大切だと思うことについて、3つまで選んでもらう設問の結果は、「思いやりがあること」（82.5%）、「親切で礼儀正しいこと」（73.7%）、「自分の意見を持ち、人前で話せること」（60.4%）が上位3項目となりました（表 24 参照）。ジェンダー別でみると、男の子と女の子とも同じ傾向を示していますが、「女性」の 79.7%が「親切で礼儀正しいこと」と回答しており、「男性」68.0%と 10 ポイント以上の差が出ました。また「きれいであること、かわいいこと」と回答した「女性」は 15.0%（「男性」8.5%）、「話が面白いこと、人を笑わせられること」と回答した「男性」は 27.0%（「女性」20.3%）と、男女差が見える項目がありました。男女以外の性自認の人は、「自分の意見を持ち、人前で話せること」と回答した人が、71.1%となり平均から 10 ポイント以上高い結果となりました。

表 24：最も大切だと思うこと（3つ選択）

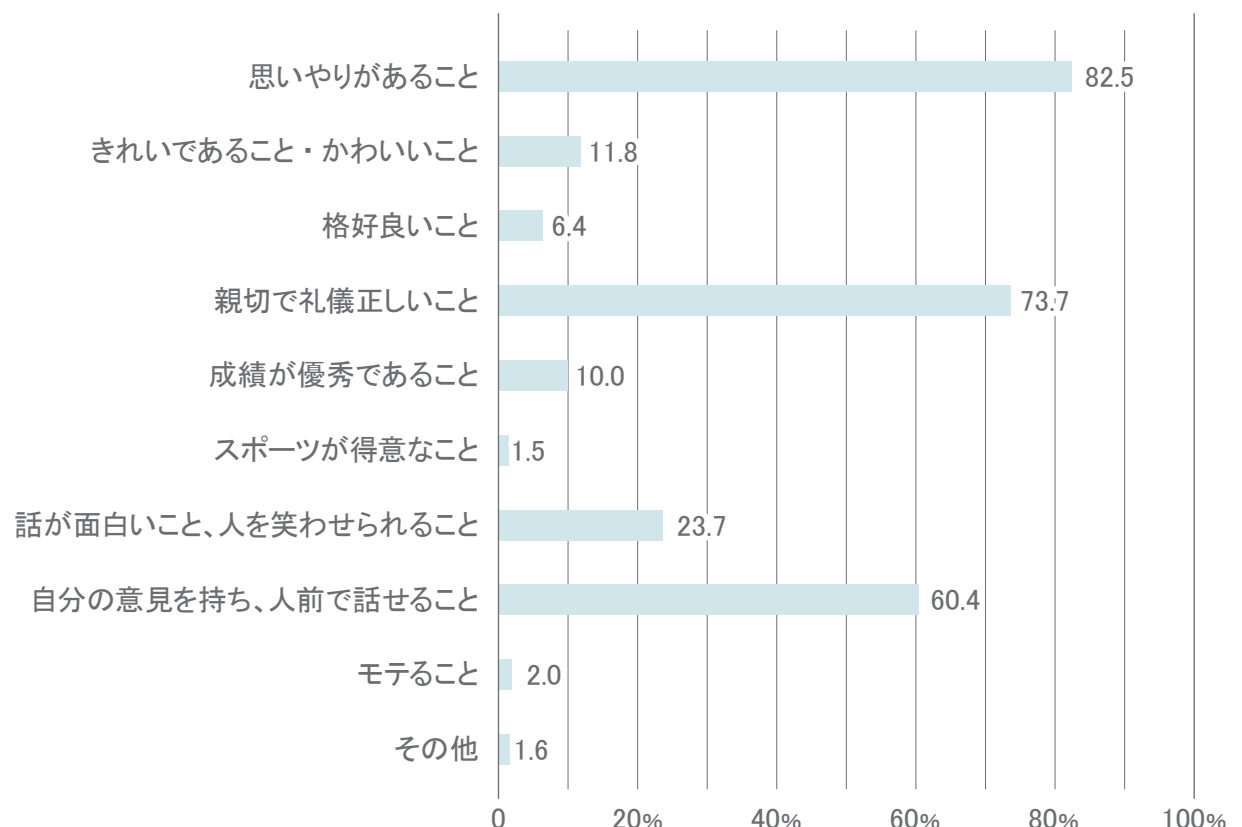
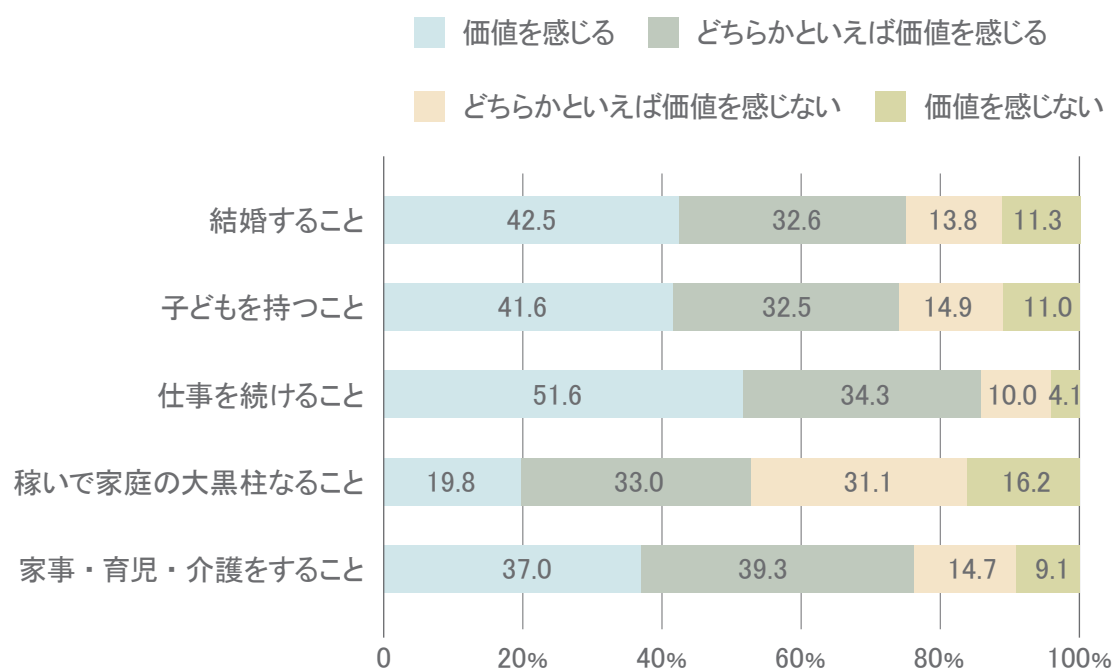


表 24 の結果を、ジェンダー・ステレオタイプの強度からみると、「ジェンダー・ステレオタイプ強」の人と「ジェンダー・ステレオタイプ弱」で違いがあった項目は、「きれいであること・かわいいこと」(「ジェンダー・ステレオタイプ弱」8.4%、「ジェンダー・ステレオタイプ強」16.2%)、「成績が優秀であること」(「ジェンダー・ステレオタイプ弱」7.8%、「ジェンダー・ステレオタイプ強」12.3%)、「自分の意見を持ち人前で話せること」(「ジェンダー・ステレオタイプ弱」65.3%、「ジェンダー・ステレオタイプ強」56.5%)などでした。(詳細は P35-36 別添 5,6 を参照)

人生に関わることの価値

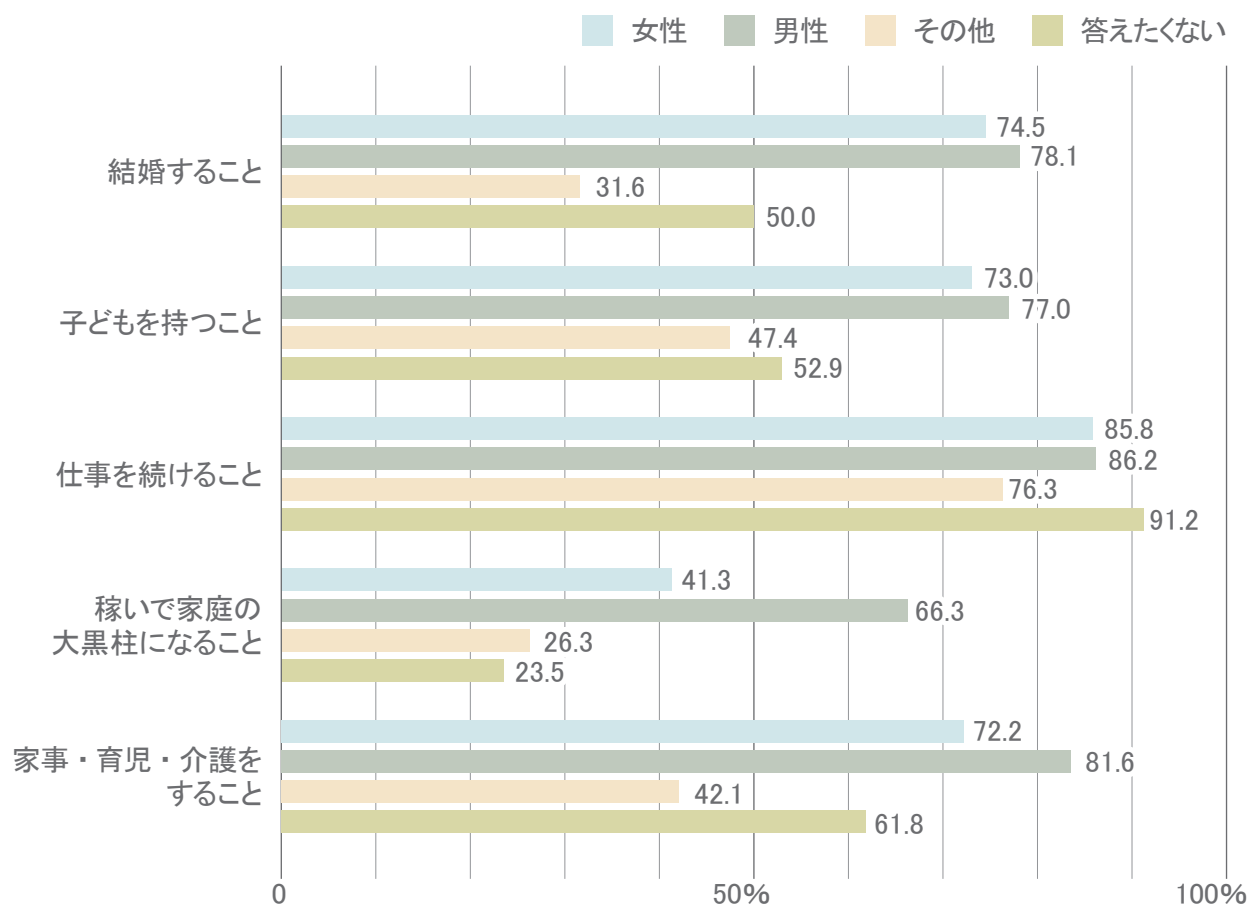
結婚や仕事、家事・育児など、人生に関わることに、それぞれどれだけの価値を置いているかを尋ねた結果は表 25 のとおりです。

表 25 : 人生において価値があること(各設問から1つ回答)



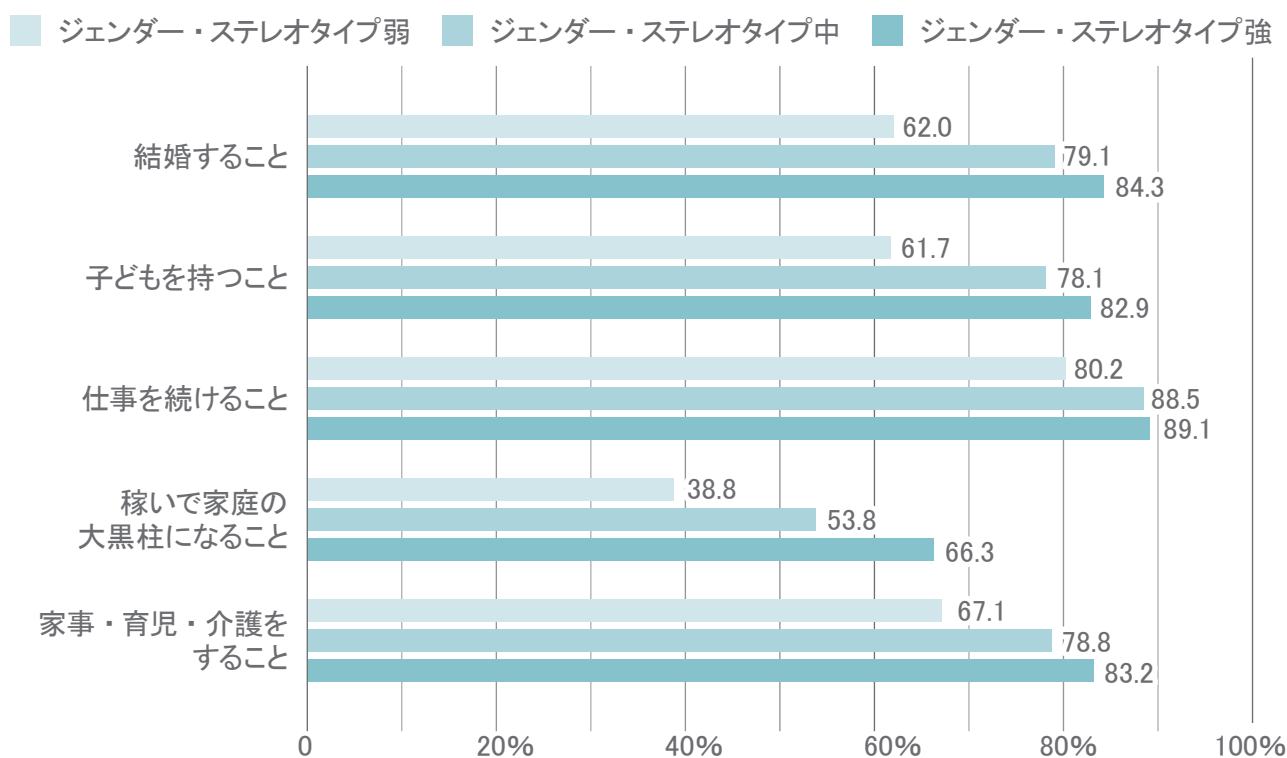
それぞれの項目で「価値を感じる」、「どちらかと言えば価値を感じる」をジェンダー別で見ると、全項目において、「価値があると感じた割合」は男の子が高く、特に「稼いで家庭の大黒柱になること」については、女の子と25ポイントの差が見られました。興味深いことに、「家事・育児・介護をすること」についても、女の子より男の子の方が価値を置いているという結果になりました(表 26 参照)。

表 26：人生において「価値を感じる」「どちらかと言えば価値を感じる」回答とした割合(ジェンダー別)



次に、ジェンダー・ステレオタイプ強度との関係を見てみました。表 27 は、各設問で「価値を感じる」と回答した人の割合を示しています。

表 27：人生において「価値を感じる」「どちらかと言えば価値を感じる」と回答した割合(ジェンダー・ステレオタイプ強度別)



全ての項目において、ジェンダー・ステレオタイプが強い人の方が、そうではない人より、設問の選択肢について肯定的な価値観を持っていることが分かりました。結婚や子どもを持つなどの面で選択や生き方が多様化するなか、ジェンダー・ステレオタイプが強い人は、より伝統的な考えを持っている傾向が見て取れます。(詳細は P37 別添 7 を参照)



提言



これらの調査結果から、以下が重要であると考えます。

早期ジェンダー教育、特に男の子に対し意識啓発を行う

高校生は、既にある程度のジェンダー・ステレオタイプを自分の価値として受け入れており、男の子がより強いジェンダー・ステレオタイプを持っている傾向があります。「ジェンダー・ステレオタイプ強」の人は、男女平等などの普遍的価値を軽視する傾向があります。ジェンダー・ステレオタイプを形成する前の、早い段階から、ジェンダー平等の意識を高める教育が必要で、特に男の子に対しての意識啓発が求められます。

高校生、特に女の子、セクシュアル・マイノリティへのジェンダー・ステレオタイプの影響をより深刻に捉える

学校、家庭、地域、メディアなどあらゆる場所でジェンダー・ステレオタイプの表現や発言が見受けられ、それにより、約7割の高校生が、自分の可能性を狭めていると感じています。ジェンダー・ステレオタイプにより自分らしく生きることや、やりたい事ができなくなってしまうなど、人生の選択や可能性に影響を及ぼしています。特に女の子やセクシュアル・マイノリティは、より大きな影響を受け、自信や意欲を奪われている可能性があります。

学校におけるジェンダー・ステレオタイプの実態を把握する

高校生がジェンダー・ステレオタイプの表現や発言を受けた場所は、学校が最も多いことから、まずは学校における慣行や先生の発言・態度などの実態を明らかにする調査を実施する必要があります。

保護者に対しジェンダー・ステレオタイプの影響についての啓発を実施する

高校生がジェンダー・ステレオタイプの表現や発言を受けた場所は、学校に次いで2番目に家庭が多くなっています。PTA活動などを通して保護者への啓発を進める必要があります。

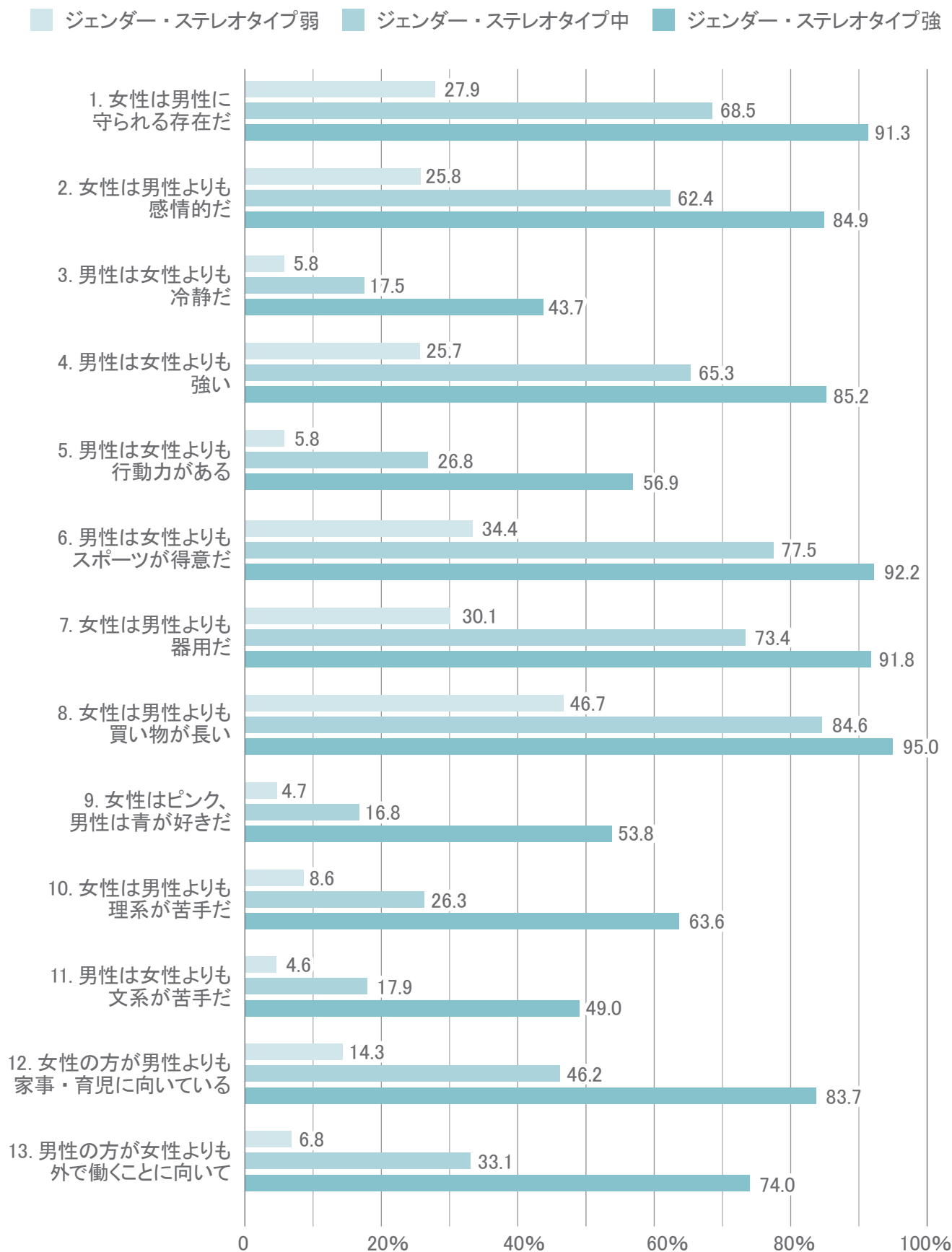
参考文献

- Plan International UK (2021) ” International Day of Girls: Gender Stereotypes Key Findings”
- Victor José Villanueva-Blasco¹, Ester Grau-Alberola (2019)
”Gender and age differences in the internalization of gender stereotypes in early and mid adolescence”
- World Economic Forum (2021) , Global Gender Gap Report 2021, March 2021,
https://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2021.pdf
- 内閣府男女共同参画局「令和3年度 性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究」
(2021 年 9 月)
https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/seibetsu_r03.html (最終閲覧日 : 2022 年 2 月 25 日)

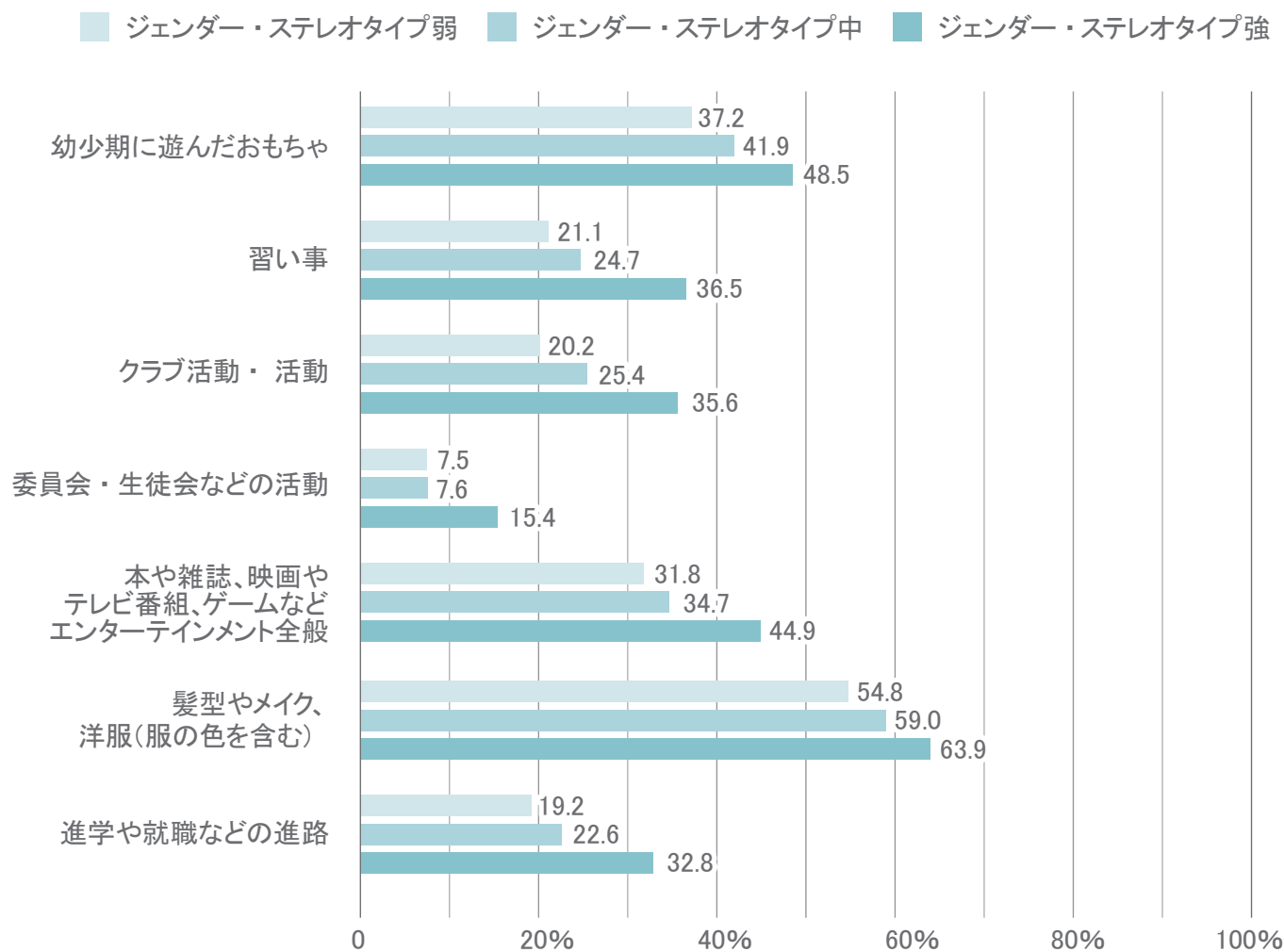


別添資料：ジェンダー・ステレオタイプ強度別のデータ

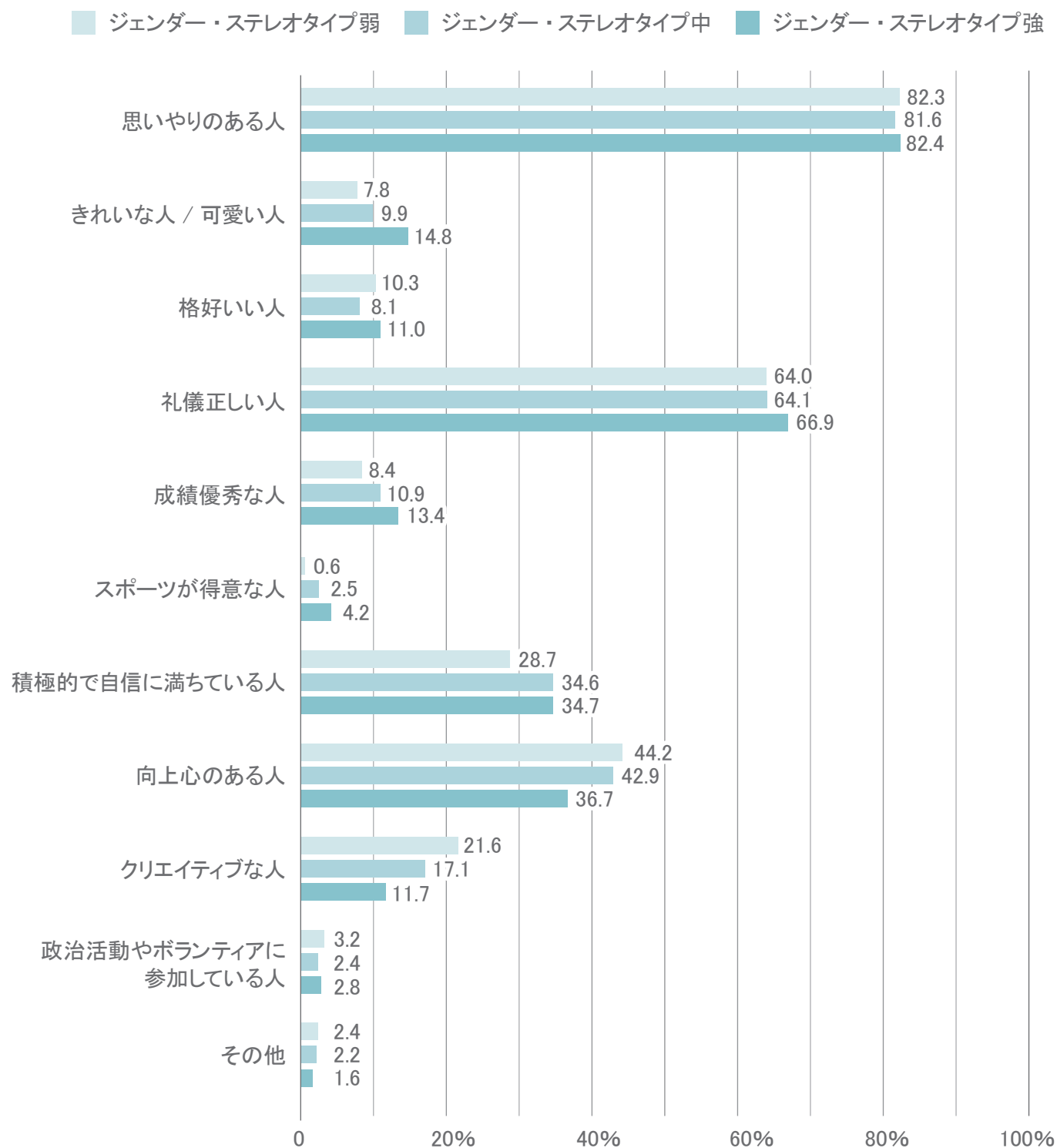
別添 1：ジェンダー・ステレオタイプな考えに「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合(ジェンダー・ステレオタイプ強度別)



別添 2：ジェンダー・ステレオタイプが選択に与えた影響と思う人の割合 (複数選択)(ジェンダー・ステレオタイプ強度別)



別添 3：憧れのリーダーのタイプ(3つ選択)(ジェンダー・ステレオタイプ強度別)

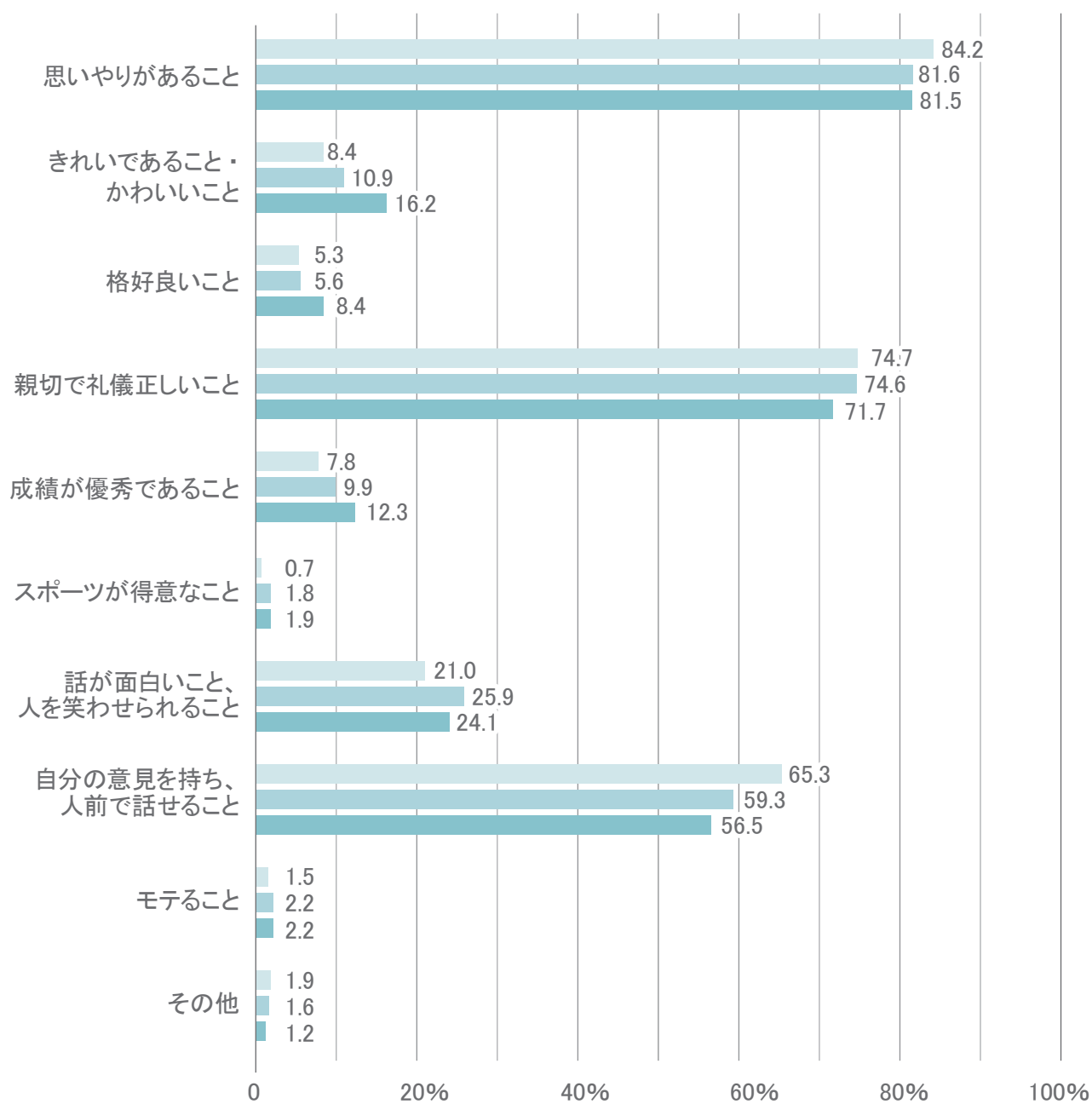


別添 4：憧れのリーダーのタイプ(3つ選択)(ジェンダー・ステレオタイプ強度別、ジェンダー別)

	ジェンダー	ジェンダー・ステレオタイプ強度		
		弱	中	強
思いやりのある人	男性	81.0%	79.4%	82.1%
	女性	84.5%	84.1%	82.8%
	その他	76.5%	100.0%	－
きれいな人 / 可愛い人	男性	8.8%	9.1%	16.1%
	女性	6.7%	10.4%	13.5%
	その他	8.8%	0.0%	－
格好いい人	男性	13.0%	9.7%	11.7%
	女性	7.9%	6.4%	10.5%
	その他	11.8%	0.0%	－
礼儀正しい人	男性	54.6%	59.3%	64.2%
	女性	71.0%	69.1%	69.6%
	その他	67.6%	50.0%	－
成績優秀な人	男性	8.8%	12.7%	14.4%
	女性	7.9%	9.5%	12.5%
	その他	14.7%	0.0%	－
スポーツが得意な人	男性	1.1%	2.4%	5.0%
	女性	0.3%	1.8%	3.4%
	その他	0.0%	0.0%	－
積極的で自信に満ちている人	男性	31.3%	38.6%	32.3%
	女性	27.6%	31.2%	37.2%
	その他	20.6%	0.0%	－
向上心のある人	男性	38.4%	37.5%	34.0%
	女性	47.8%	48.0%	40.2%
	その他	41.2%	50.0%	－
クリエイティブな人	男性	24.6%	20.9%	13.8%
	女性	17.9%	13.5%	9.5%
	その他	32.4%	25.0%	－
政治活動やボランティアに参加している人	男性	2.1%	2.9%	2.6%
	女性	4.1%	1.8%	3.0%
	その他	2.9%	0.0%	0.0%
その他	男性	3.2%	2.7%	2.3%
	女性	2.1%	1.8%	0.7%
	その他	0.0%	0.0%	－

別添 5：最も大切だと思うこと(3つ選択)(ジェンダー・ステレオタイプ強度別)

■ ジェンダー・ステレオタイプ弱 ■ ジェンダー・ステレオタイプ中 ■ ジェンダー・ステレオタイプ強



別添 6：最も大切だと思うこと(3つ選択)(ジェンダー・ステレオタイプ強度別、ジェンダー別)

	ジェンダー	ジェンダー・ステレオタイプ強度		
		弱	中	強
思いやりがあること	男性	84.9%	81.7%	78.6%
	女性	83.9%	81.3%	84.8%
	その他	88.2%	100.0%	－
きれいであること・かわいいこと	男性	4.9%	7.7%	12.3%
	女性	11.1%	14.1%	20.6%
	その他	5.9%	0.0%	－
格好良いこと	男性	7.0%	8.0%	10.0%
	女性	3.2%	2.8%	6.8%
	その他	8.8%	0.0%	－
親切で礼儀正しいこと	男性	68.7%	69.0%	66.6%
	女性	80.4%	81.0%	77.4%
	その他	73.5%	25.0%	－
成績が優秀であること	男性	8.1%	10.3%	16.7%
	女性	7.3%	9.2%	7.4%
	その他	11.8%	25.0%	－
スポーツが得意なこと	男性	1.1%	2.7%	2.3%
	女性	0.6%	0.6%	1.4%
	その他	0.0%	0.0%	－
話が面白いこと、人を笑わせられること	男性	26.4%	28.9%	25.5%
	女性	16.1%	22.3%	23.0%
	その他	20.6%	50.0%	－
自分の意見を持ち、人前で話せること	男性	62.0%	59.3%	53.7%
	女性	67.4%	59.3%	59.5%
	その他	73.5%	50.0%	－
モテること	男性	2.5%	3.2%	2.3%
	女性	0.9%	1.2%	2.0%
	その他	0.0%	0.0%	－
その他	男性	2.5%	1.8%	2.1%
	女性	1.2%	1.5%	0.3%
	その他	2.9%	0.0%	－

別添 7：人生において「価値を感じる」「どちらかと言えば価値を感じる」割合
(ジェンダー・ステレオタイプ強度別、ジェンダー別)

	ジェンダー	ジェンダー・ステレオタイプ強度		
		弱	中	強
結婚すること	男性	41.5%	47.5%	54.5%
	女性	24.0%	42.5%	52.7%
	その他	11.8%	0.0%	－
子どもを持つこと	男性	40.5%	44.0%	55.7%
	女性	25.5%	40.4%	50.0%
	その他	14.7%	0.0%	－
仕事を続けること	男性	47.5%	53.7%	67.4%
	女性	43.7%	47.4%	51.7%
	その他	41.2%	25.0%	－
稼いで家庭の大黒柱になること	男性	21.1%	28.0%	41.9%
	女性	7.0%	10.1%	12.2%
	その他	5.9%	0.0%	－
家事・育児・介護をすること	男性	42.3%	41.0%	49.3%
	女性	21.7%	34.6%	39.2%
	その他	11.8%	0.0%	－



プラン・インターナショナルは、子どもの権利を推進し、貧困や差別のない社会を実現するために世界 70 カ国以上で活動する国際 NGO です。創立は 1937 年。長年にわたり、子どもや若者、地域の人々とともに地域開発を進めてきました。すべての子どもたちの権利が守られるよう、とりわけ女の子や女性への支援に力を入れています。市民社会、政府機関や国際機関と連携しながら、世界を持続的に、前向きに変えていきます。

本報告書に関するお問い合わせ

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン アドボカシーグループ

ウェブサイト : www.plan-international.jp

TEL : 03-5481-3533

E-mail : Advocacy@plan-international.jp